ご使用のしおり

《取扱説明書》

JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY.

危害・損害の程度を表わす表示

警告　この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	注意　この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味

	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。（左図の場合は一般的な注意）
	⃠記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。（左図の場合は分解禁止）
	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。（左図の場合は一般的な強制）

警告　感電・火災の原因になります。

必ず実行	一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。
必ず電源プラグを抜く	以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき
必ず実行	電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
禁　止	ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は 5℃～35℃です。
禁　止	スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。

注意　感電・火災・けがの原因になります。

分解禁止	お客様自身での分解はしないでください。
接触禁止	ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
禁　止	ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
禁　止	フットコントローラーの上に物をのせないでください。
禁　止	曲がった針や、先のつぶれた針はご使用にならないでください。

注意　感電・火災・けがの原因になります。

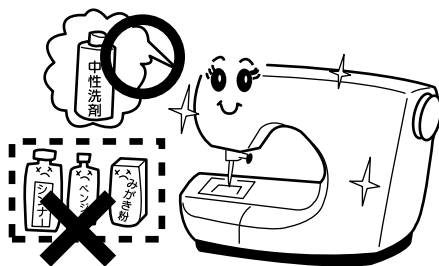
禁　止	ミシンの通風口はふさがないでください。 また、プラグ受けに糸くずや、ほこりがたまらないようにしてください
注　意	お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
必ず実行	針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
必ず実行	以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
必ず実行	電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
必ず電源プラグを抜く	以下のことをするときには、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのお手入れを行うとき ・針、針板を交換するとき
必ず電源プラグを抜く	ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水にぬれたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

目　次

◎お取り扱いについてのお願い

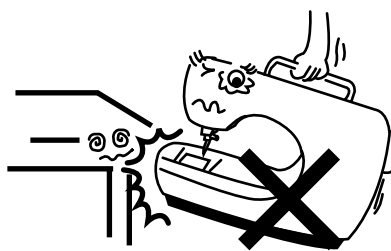
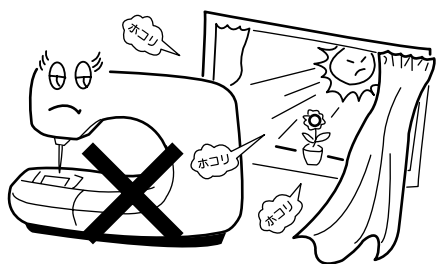
◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

◇いつまでもご愛用いただくために

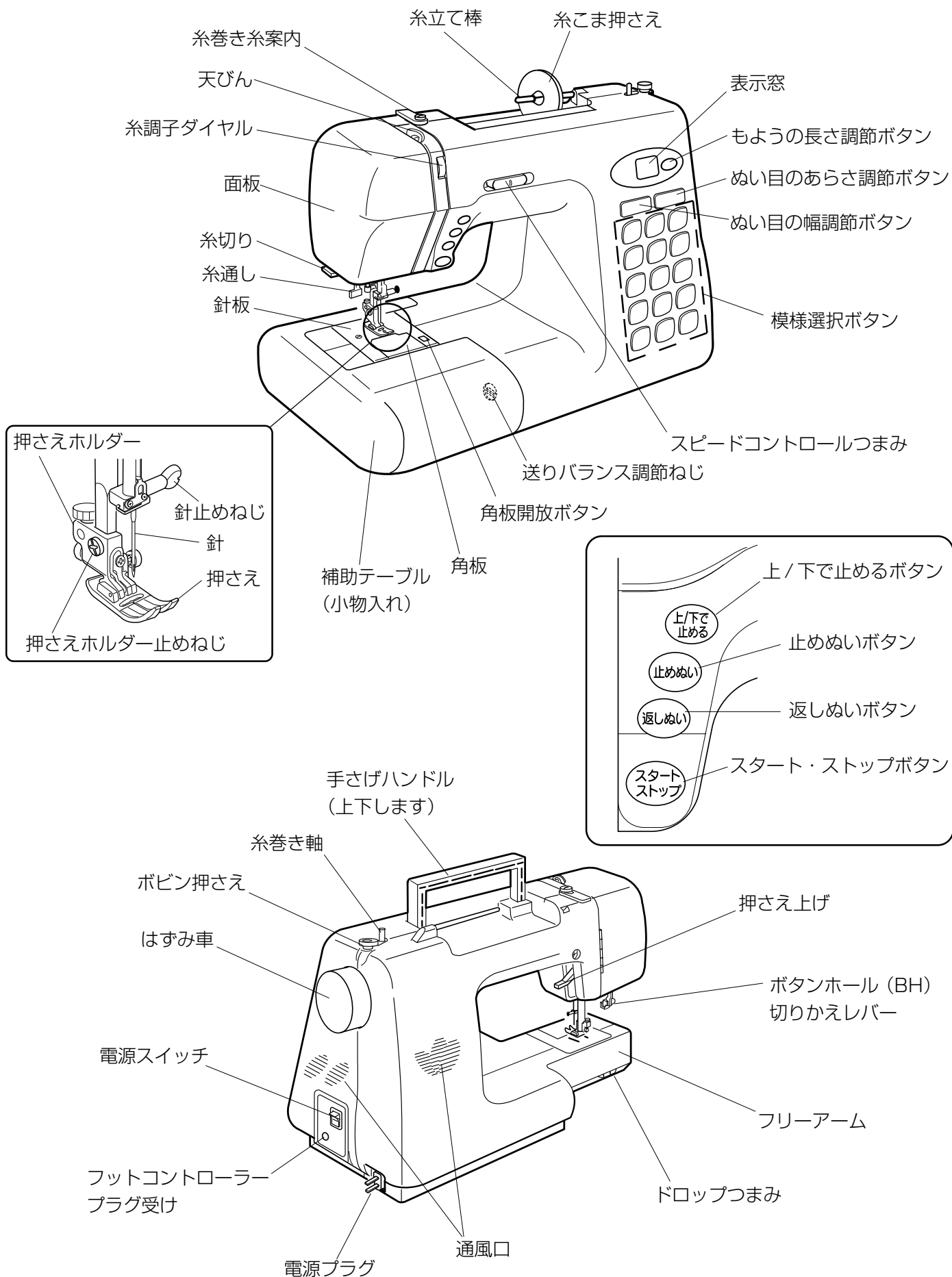
① 長時間日光に当てないでください。

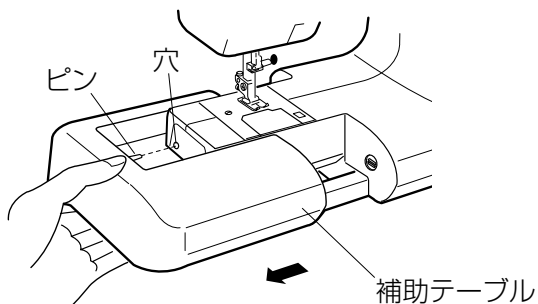
② 湿気やほこりの多いところは避けてください。

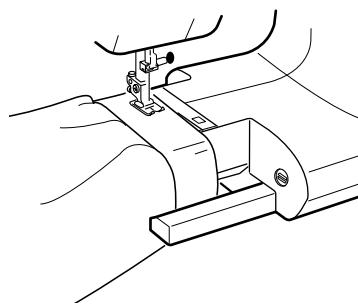
③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

◇修理・調整についてのご案内

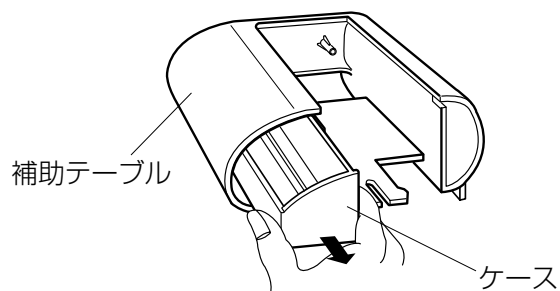
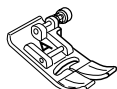
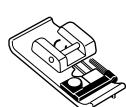
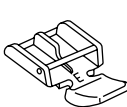
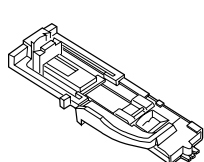
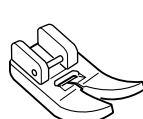
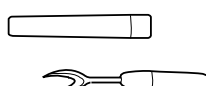
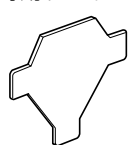
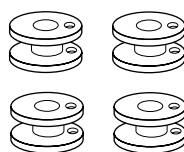
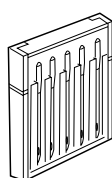
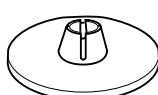
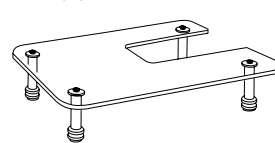
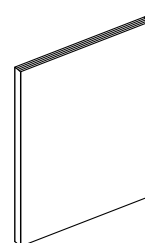
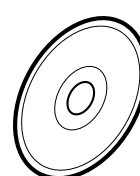
万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」（47 ページ）により点検・調整を行ってください。

◎各部のなまえ

糸立て棒
糸こま押さえ
糸巻き糸案内
天びん
表示窓
糸調子ダイヤル
もようの長さ調節ボタン
面板
ぬい目のあらさ調節ボタン
ぬい目の幅調節ボタン
糸切り
糸通し
針板
模様選択ボタン
押さえホルダー
スピードコントロールつまみ
送りバランス調節ねじ
針止めねじ
角板開放ボタン
針
押さえ
補助テーブル
(小物入れ)
角板
押さえホルダー止めねじ
上/下で止めるボタン
上/下で止める
止めぬいボタン
止めぬい
返しぬい
返しぬいボタン
スタート・ストップボタン
スタート ストップ
手さげハンドル
(上下します)
糸巻き軸
ボビン押さえ
押さえ上げ
はずみ車
ボタンホール(BH)
切りかえレバー
電源スイッチ
フリーアーム
フットコントローラー
プラグ受け
ドロップつまみ
通風口
電源プラグ

◎補助テーブルの使い方

【補助テーブルの外し方】
補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。

※補助テーブルを取り付けるときは、フリーアームにそわせ、ピンを穴に入れ、取り付けます。

【フリーアームの使い方】
そでぐちやすそなどのぬい、および、ふくろ物のくち端の始末に利用します。

◎標準付属品と収納場所

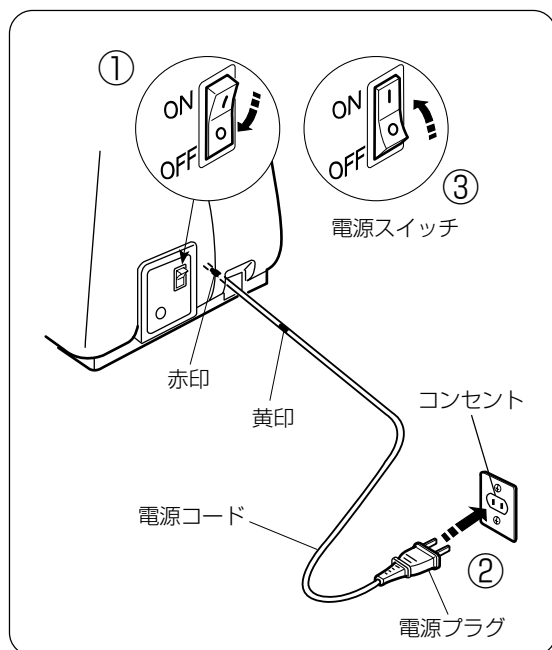
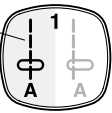
ケースを取り出し、押さえ等の小物を収納します。

◎操作方法

●電源のつなぎ方

★スタート･ストップボタンを使用する場合

⚠ 警告

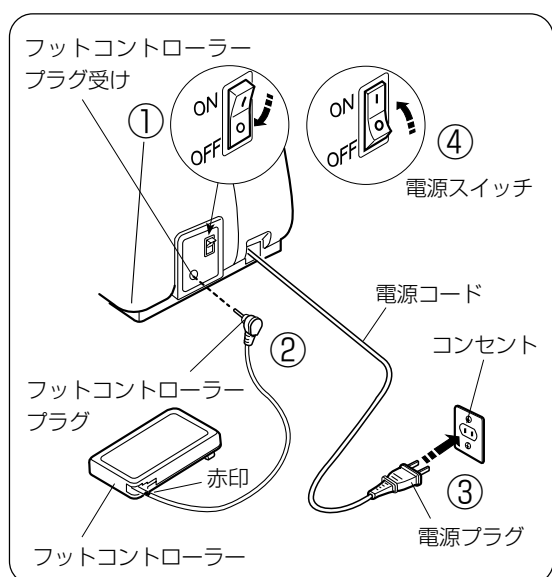
必ずプラグを抜く

・電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
・ミシンを使わないときは、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。
感電、火災の原因になります。
・電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり、**火災の原因になります。**

① 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
② 電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。
③ 電源スイッチを「ON」(入) にします。

【電源投入時】 1秒後に模様 が点灯し、表示窓には自動セットのぬい目のあらさを表示します。

これでミシンの準備が完了です。

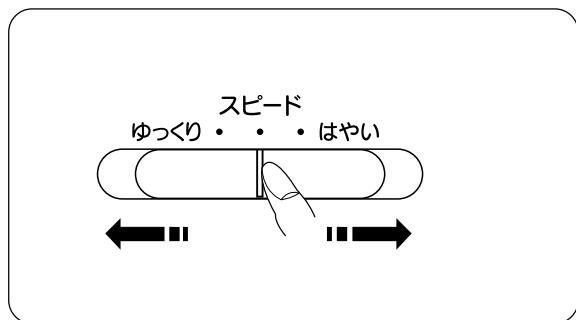
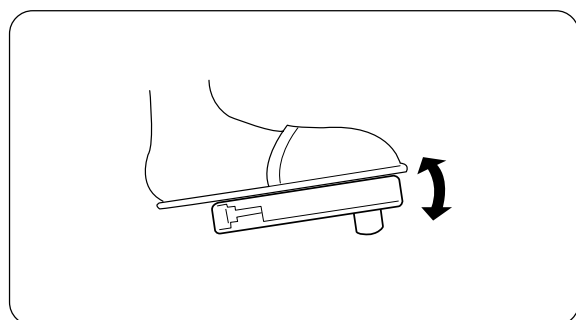
※ 電源コードを引き出しすぎると断線の恐れがありますので、赤印以上は引き出さないでください。
黄色の印が出たら 30cm ぐらいで赤印になります。

★フットコントローラーを使用する場合

※フットコントローラーはモデルによりオプションになります。

① 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
② フットコントローラープラグをフットコントローラープラグ受けに差し込みます。
③ 電源コードを引き出し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
④ 電源スイッチを「ON」(入) にします。

※ フットコントローラーを使用する場合はスタート・ストップボタンは作動しません。
※ フットコントローラーのコードを引き出しすぎると断線の恐れがありますので、赤印以上は引き出さないでください。

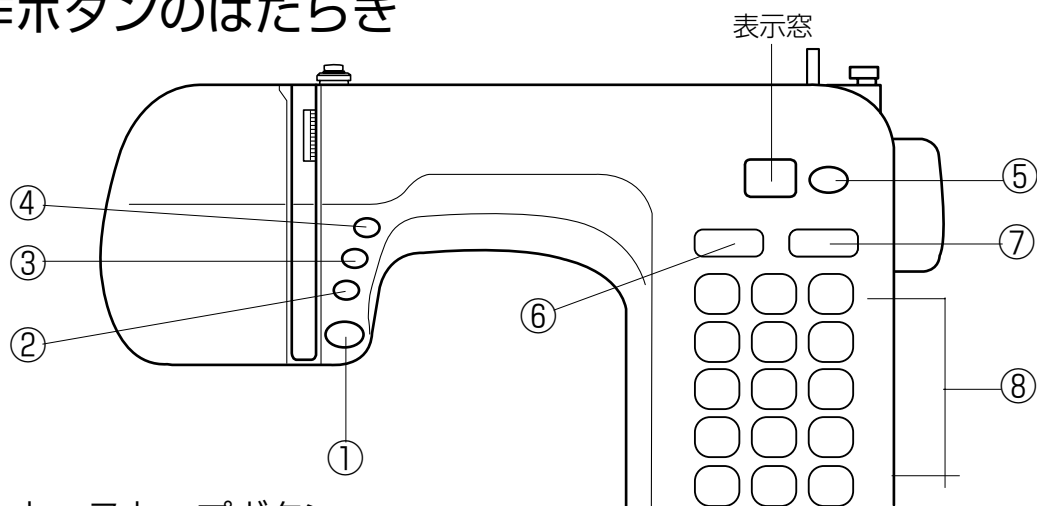
●速さの調節

（ミシンの速さは、フットコントローラーやスピードコントロールつまみで調節します。）

ぬう速さは自由にセットできますので、お好みの速さにスピードコントロールつまみをセットしてください。

【フットコントローラー使用時】

スピードコントロールつまみを通常「はやい」の位置にセットします。フットコントローラーの踏みかげんで、ぬう速さが調節できます。
フットコントローラーは、深く踏み込むほど速くなります。

※スピードコントロールつまみは、フットコントローラーをいっぱいに踏み込んだときの最高速度を調節します。

※フットコントローラーに糸くずや、ほこりがたまらないようにしてください。また、フットコントローラーの上に物を置かないようにしてください。けがや故障の原因となります。

●操作ボタンのはたらき

①スタート・ストップボタン

スタート・ストップボタンを押すと、ゆっくり動きだしてからスピードコントロールつまみでセットした速さになります。

※スタート・ストップボタンを押しつづけている間、ミシンはゆっくり動きます。

※スタート・ストップボタンを使用するときは、フットコントローラーの接続は、外してください。

※押さえ上げをさげないでミシンをスタートしたとき、表示窓に dn 表示が出て、ミシンは動きません。
押さえ上げをさげてからスタート・ストップボタンを押してください。

※停止中はボタンは緑色に点灯しています。運転中は、赤色にかわります。

②返しぬいボタン

【運転中の返しぬい】

模様 は、返しぬいボタンを押している間返しぬいをします。
その他の模様は、返しぬいボタンを押すとすぐに止めぬいをして自動的に止まります。
（模様 は除きます。）

【停止中の返しぬい】（スタート・ストップボタン使用時のみ）

模様 は、ミシンが動いていない状態で返しぬいボタンを押すと、押している間は返しぬいをし、指をはなすと止まります。

※返しぬい中は、ボタンが赤色に点灯します。

③止めぬいボタン

模様 は、止めぬいボタンを押すと数針止めぬいをして自動的に止まります。
その他の模様のときは、模様を完成させてから止めぬいをして自動的に止まります。
（模様 は除きます。）

※ぬう前に止めぬいボタンを押しておくと、模様を１つぬって自動的に止まります。

※止めぬいをして自動的に止まるまでボタンは緑色に点灯します。

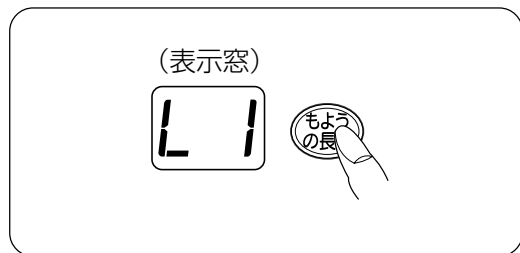
④上／下で止めるボタン

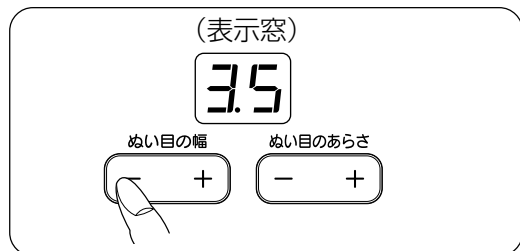
ミシンが止まっているとき、上/下で止めるボタンを押すと、針の位置が上にあるときは下にきりかえ、下にあるときは上にきりかえます。

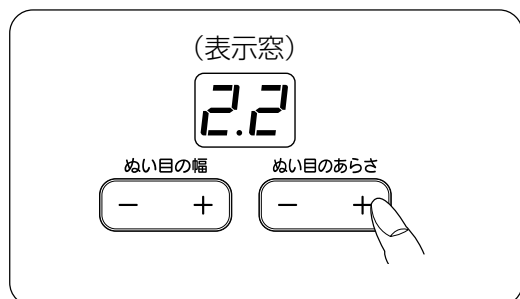
※ミシンが動いているときにも、切りかえられます。

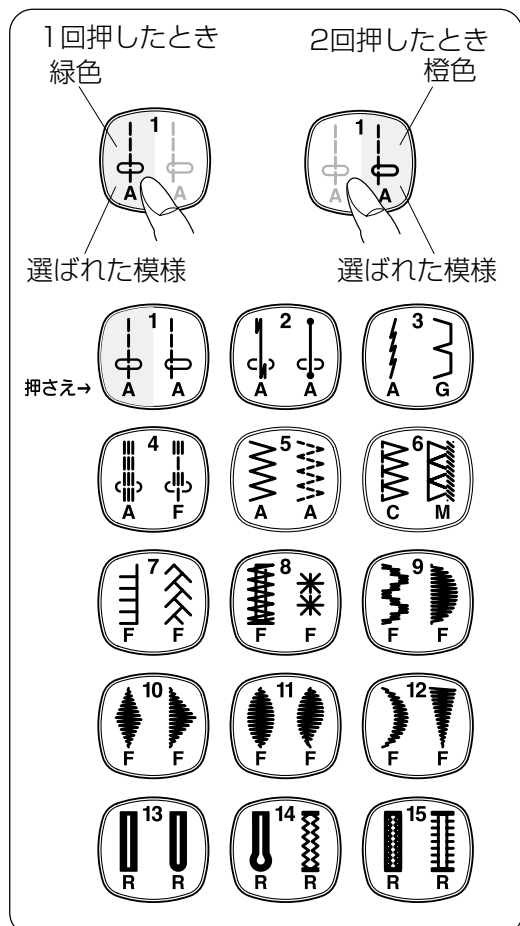
※上位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンを止めたとき針は上位置で止まり、下位置に切りかえた状態でぬうと、針は下位置で止まります。

※下位置に設定されているとき、ボタンが橙色に点灯しています。

⑤もようの長さボタン

サテン（密着）模様の模様長さをかえるときに使います。
（39ページをごらんください。）
もようの長さ調節ボタンが点灯し、表示窓に模様長さを表示します。

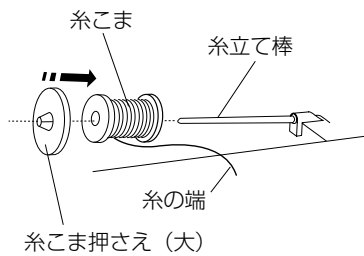
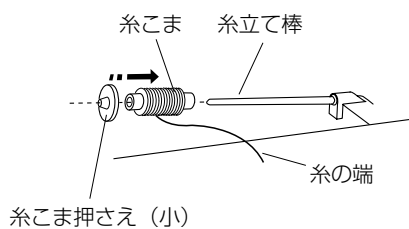
⑥ぬい目の幅調節ボタン

ぬい目の幅、または針位置をかえるときに使います。
（21、24ページをごらんください。）
ぬい目の幅調節ボタン中央が緑色に点灯し、表示窓にぬい目の幅、または、針位置を表示します。

⑦ぬい目のあらさ調節ボタン

ぬい目のあらさをかえるときに使います。
（21、24ページをごらんください。）
ぬい目のあらさ調節ボタン中央が緑色に点灯し、表示窓にぬい目のあらさを表示します。
※表示窓には、模様長さ、ぬい目の幅、ぬい目のあらさの表示のほかに、糸巻き表示や、警告メッセージの表示が出ます。警告メッセージを２秒間表示している間は、模様長さ、ぬい目の幅、ぬい目のあらさの表示は消灯します。

⑧模様選択ボタン

模様選択ボタンを押して、模様を選びます。
模様選択ボタンを１回押すと緑色になり、左側の模様が選ばれます。
模様選択ボタンを２回押すと橙色になり、右側の模様が選ばれます。

※表示窓には、その模様に自動セットされたぬい目あらさの数値を表示します。
※模様選択ボタンを押すときは、針を布からあげてください。

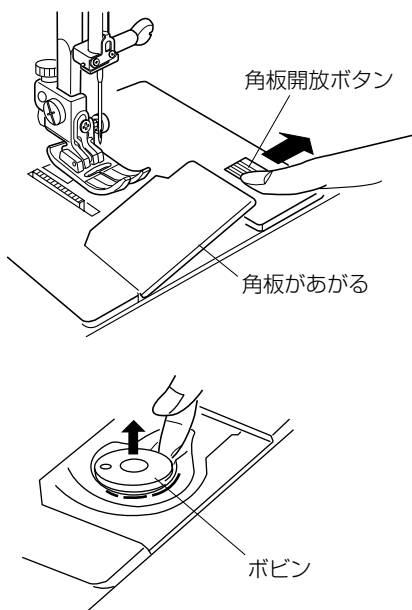
●下糸の準備をしましょう

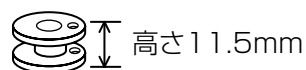
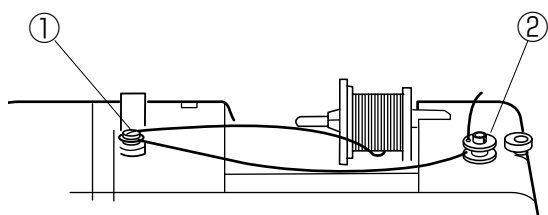
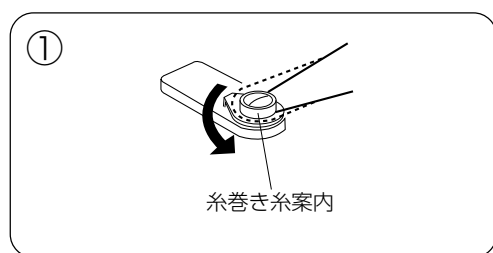
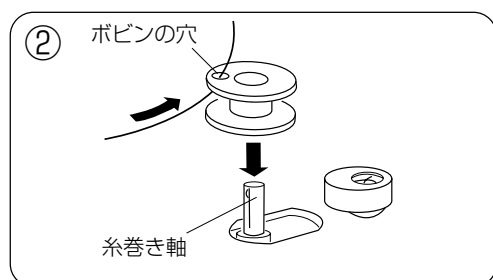
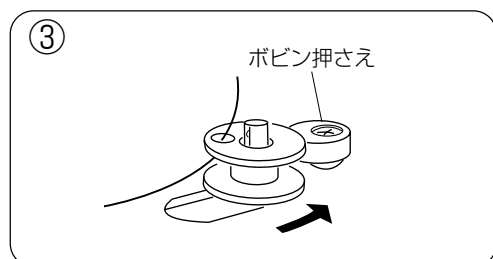
★糸こまをセットします

【1】普通の糸こまのとき

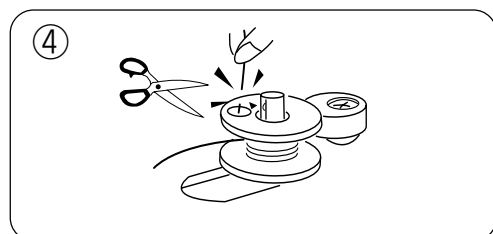
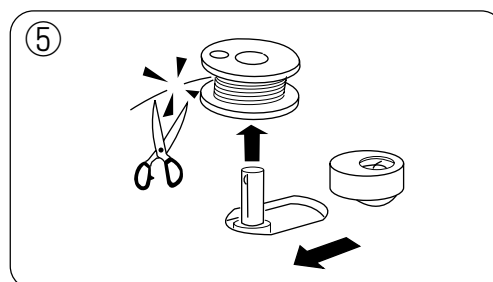
糸の端が糸こまの下から手前に出るようにして糸こまを糸立て棒に入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

【2】小さい糸こまのとき

小さい糸こまのときには、糸こま押さえ（小）を使用します。

★ボビンを取り出します

角板開放ボタンを右へずらして角板を外し、ボビンを取り出します。

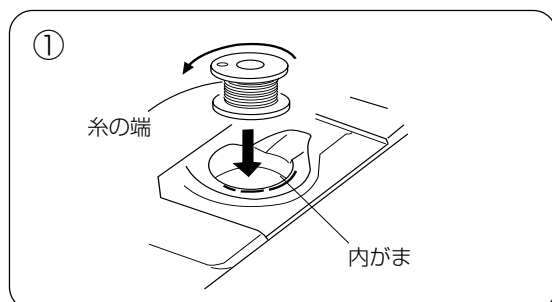
※ ボビンは、必ず専用プラスチックボビンをおすすめします。
市販の水平釜用プラスチックボビン（厚型、高さ11.5mm）も使用できます。
他の紙ボビン等を使用すると、ぬい不良の原因になります。

★ボビンに糸を巻きます

※糸巻き時は、スピードコントロールつまみを「はやい」にセットしてご使用ください。

① 糸巻き糸案内に糸をかけます。

② ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。

③ ボビンを、ボビン押さえの方に押しつけます。

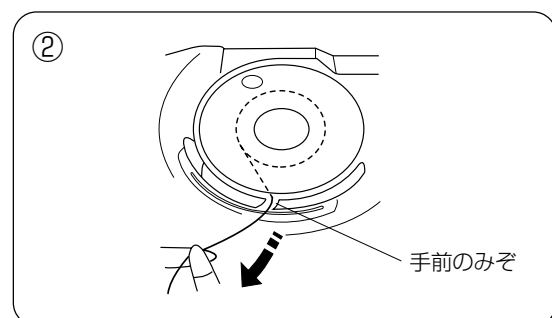
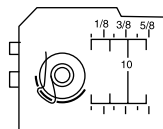
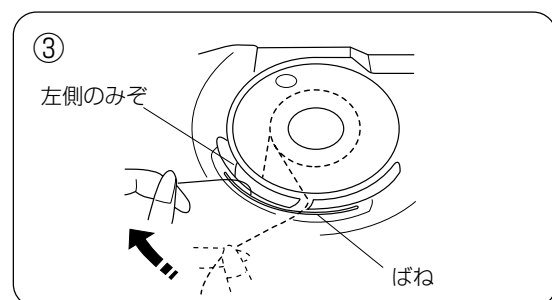
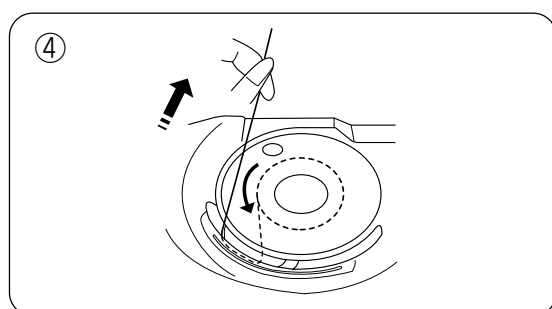
※ 表示窓に JC と表示され、糸巻き位置にセットされたことを表示します。

④ 糸の端をつまんだままスタートして、ボビンに糸が２～３重くらい巻きついたらミシンを止めて、糸を切ります。

⑤ ふたたびスタートして、巻き終わるとボビンの回転が止まります。
ミシンを止めて糸巻き軸をもどし、糸巻き軸よりボビンを外し糸を切ります。

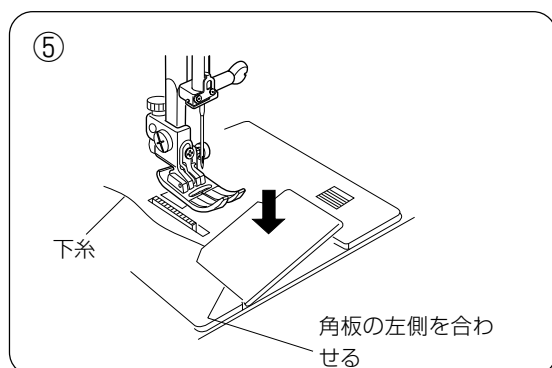
※ 巻き終わったあと、ミシンを止めなかった場合には安全のため、ミシンモータは 2 分間で自動停止します。

★ボビンを内がまにセットします

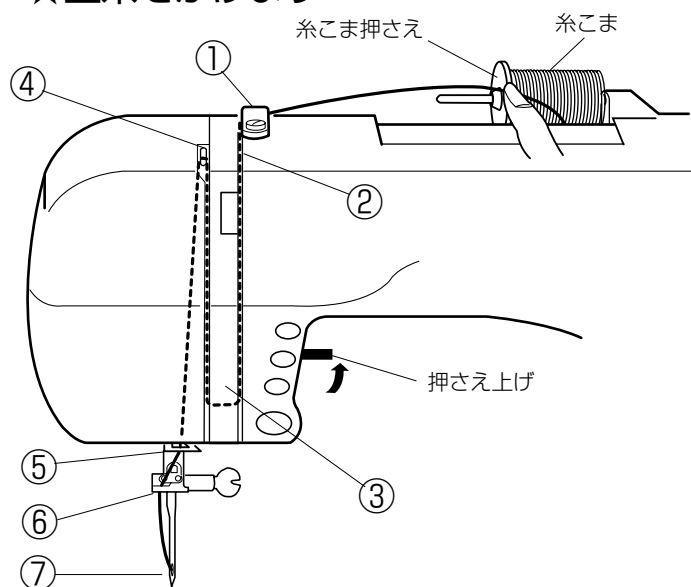
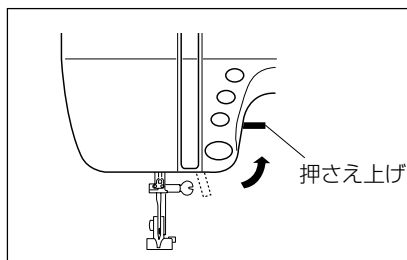
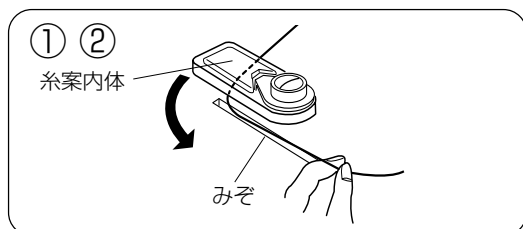
注意

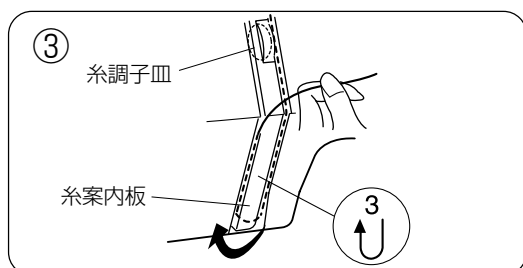
必ず実行 ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってください。**けがの原因になります。**

① 糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。

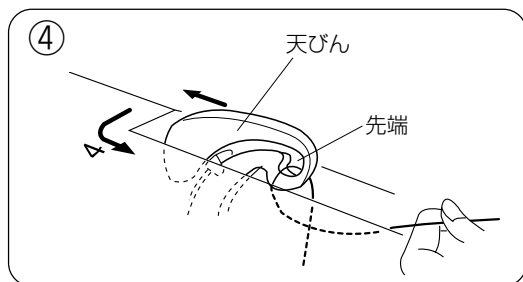
※ 角板にボビンのセット状態を表示しています。

② 糸の端を引きながら、手前のみぞにかけます。

③ 糸を引きながら、左へ移動させ、みぞの外側とばねの間を通して、左側のみぞから出します。

④ 糸を左側のみぞにかけるように向こう側に出します。

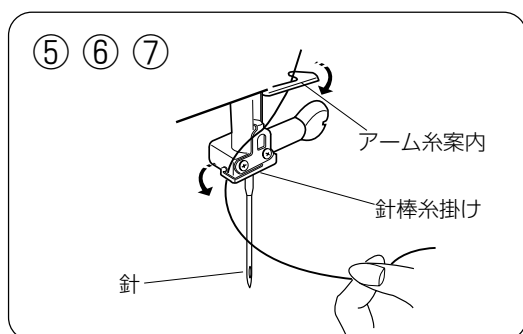
※ 糸を引き出したとき、ボビンは、反時計方向に回転します。時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえます。

⑤ 下糸は 10cm くらい引き出して、角板を左側から合わせてつけます。

●上糸の準備をしましょう

★上糸をかけます

【準備】

1. 上糸をかけるときは、必ず押さえ上げで押さえをあげてください。
2. 糸こまの外れ防止のため、必ず、糸こま押さえを使用してください。
3. 電源を入れ、「上/下で止めるボタン」を押して針と天びんを上にあげて、電源を切ります。

① 糸こまから糸を引き出し、糸こま側の糸を軽く押さえながら糸案内体の下に巻きつけるようにしてかけます。

② みぞにそって手前に糸を引き出します。

③ 糸こま側の糸を押さえて、糸案内板の下 をまわし、左上に引きあげます。

※ 糸調子皿から外れていないか確認してください。

④ 糸こま側の糸を押さえて、糸を天びんに右から後ろへまわして手前に出し、まっすぐ下におろします。

※ 糸が天びんの先端まで入っていることを確認します。

⑤ アーム糸案内に右からかけます。

⑥ 針棒糸掛けに左からかけます。

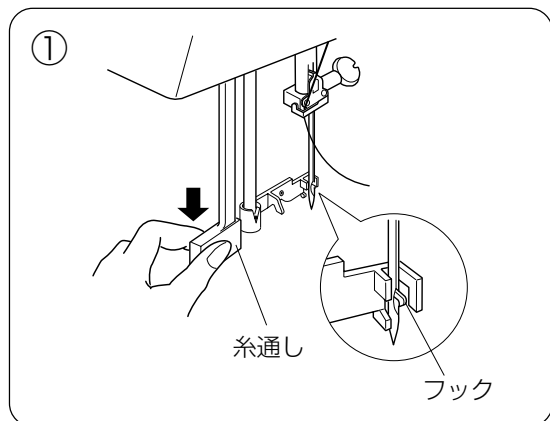
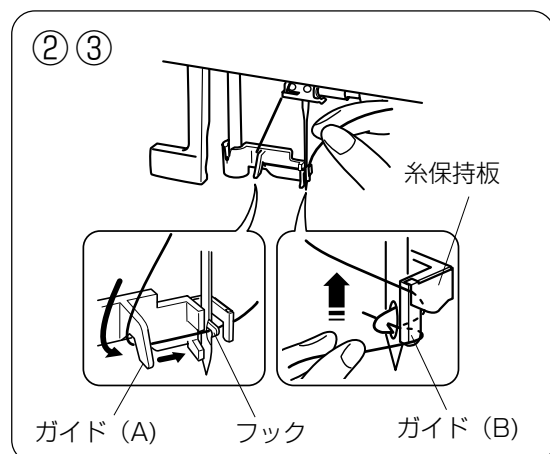
⑦ 針には糸通しを使って糸を通します。
糸通しの使い方は、13 ページをごらんください。

★糸通しの使い方

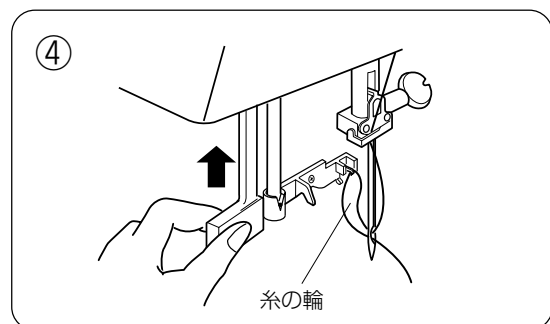
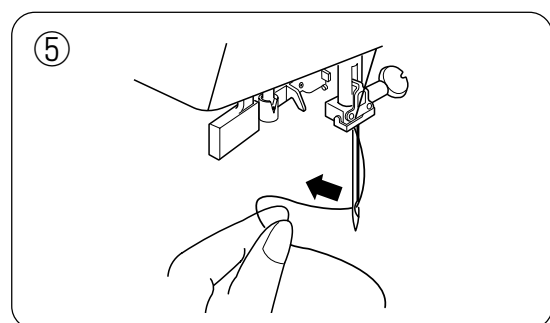
※針は、11番〜16番および、ジャノメブルー針が使えます。糸は、50番〜90番が使えます。

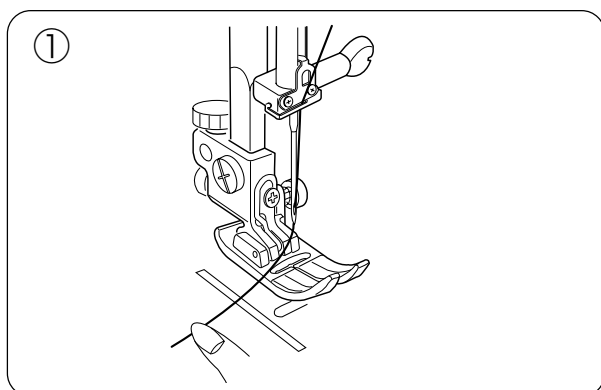
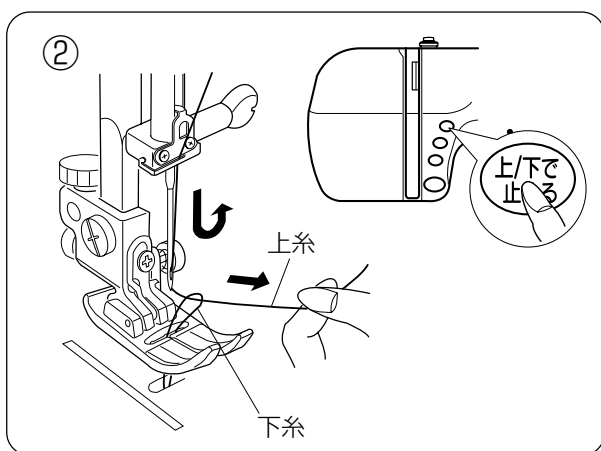
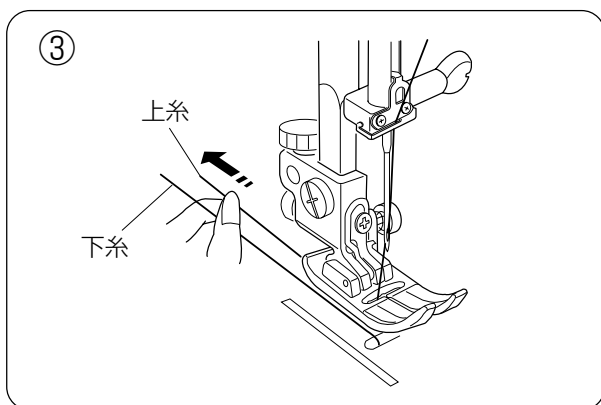
⚠ 注意

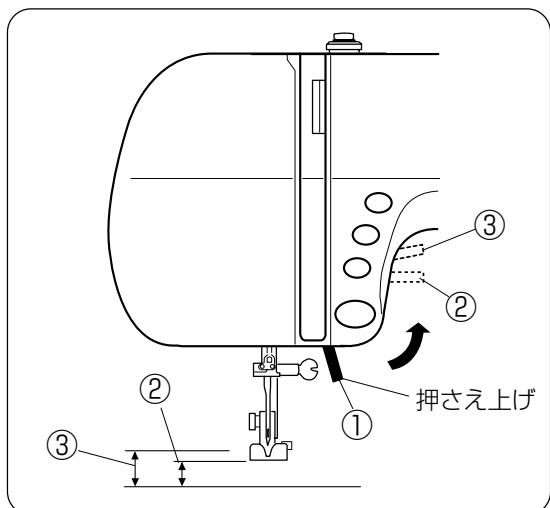
必ず実行

糸通しを使用するときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。

① 上糸かけのときに「上／下で止めるボタン」で針をあげた状態のまま、押さえをさげます。
糸通しを止まるまで引きさげます。
※ 糸通しが止まった位置で、針穴にフックが入っています。

② 糸をガイド（A）の左側から下をまわしてガイド（B）にかけます。

※ 糸はフックの下を通ります。

③ ガイド（B）にかけた状態で糸を手前にまわし、そのままガイド（B）の側面にそって上に引きあげ、糸保持板にはさみ込みます。

④ 糸通しを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

⑤ 糸の輪を糸通しから外し、糸の輪を向こう側に出しながら、針穴から端を引き出します。

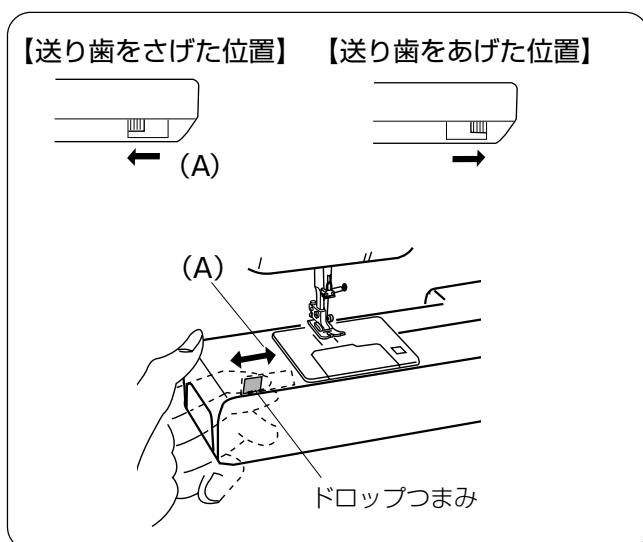
★下糸を引きあげます

① 押さえ上げをあげ、糸の端を指で押さえておきます。

② 電源を入れ「上 / 下で止めるボタン」を 2 度押し、
針 をあげます。
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

③ 上糸･下糸を押さえの下にして後ろへそろえて
引き出します。

●押さえ上げ

押さえ上げで、押さえのあげさげをします。
普通にあげた位置よりさらにあげることもでき､厚い布を入れるときの補助リフトとして使用します。

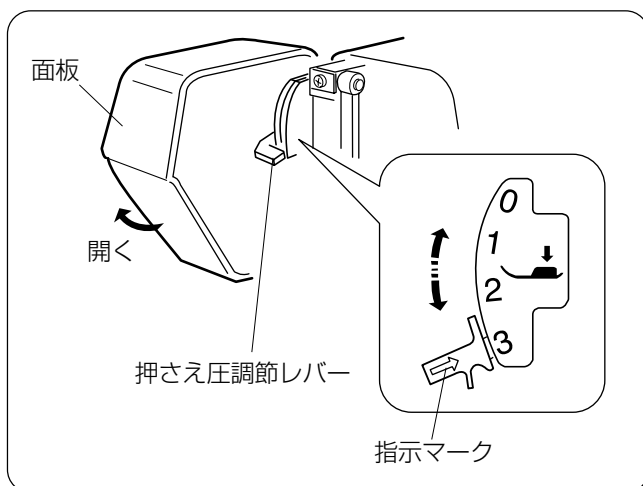
①さげた位置 .... ぬうときは、さげておきます。

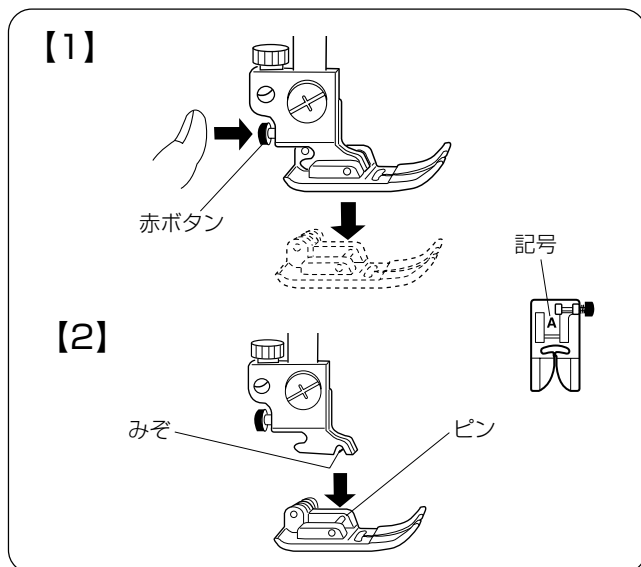
②普通にあげた位置 ...... 布のとり出しや、押さえの取りかえのときにあげます。

③さらにあげた位置 ...... 補助リフトで、厚い布が入れやすくなります。

●送り歯のさげ方

ボタン付けなどで、送り歯をさげるときはドロップつまみを（A）方向に動かします。

※ ぬいが終わったら、送り歯をあげる位置にもどしておきます。送り歯はミシンが回転すると自動的にあがります。

●押さえ圧調節

面板を開き、押さえ圧調節レバーを動かし指示マークを数字に合わせます。普通ぬいのときは、「3」に指示マークを合わせます。
うす手の布地や伸縮性のある布地をぬうとき、および、アップリケなどぬいしろ部分が重なりあうものをぬうときには「2」または「1」に指示マークを合わせます。

●押さえの取りかえ方

注意

必ず実行

押さえの取りかえは、必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。

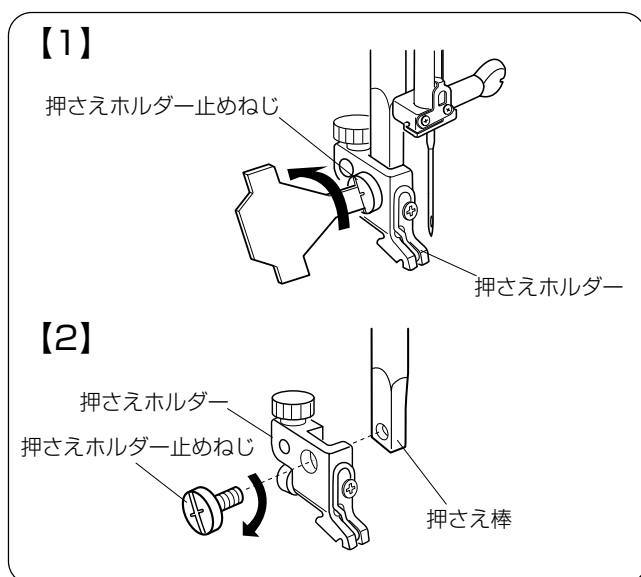
【1】押さえの外し方

押さえ上げをあげて、押さえホルダーの赤ボタンを押して、押さえを外します。

【2】押さえの付け方

押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

※押さえには、記号が付いていますので模様に合ったものを使用してください。

●押さえホルダーの外し方、付け方

注意

必ず実行

押さえホルダーを外すとき、または、付けるときには必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。

【1】押さえホルダーの外し方

押さえホルダー止めねじを左にまわして、外します。

【2】押さえホルダーの付け方

押さえホルダー止めねじを右にまわして、押さえ棒に付けます。

●針の取りかえ方

⚠ 注意

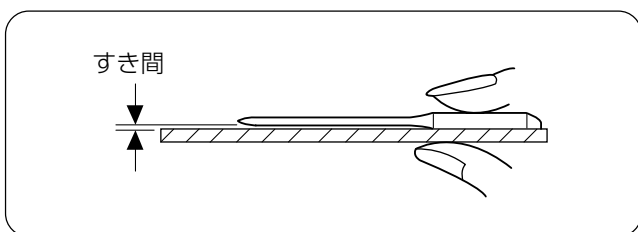
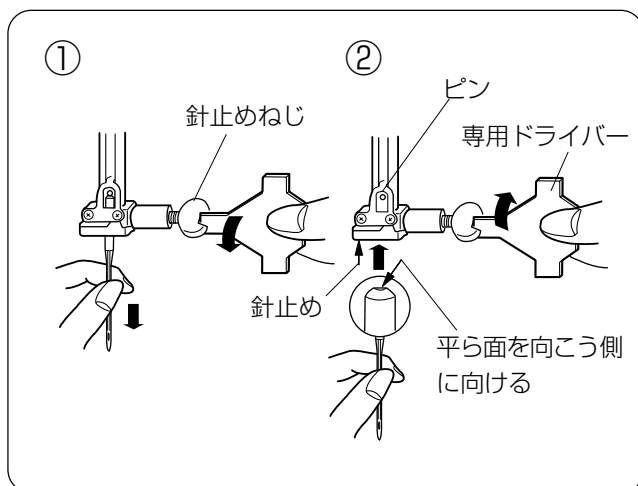
必ずプラグ
を抜く

針の取りかえは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
けがの原因になります。

※針をあげ、押さえ上げをさげます。

① 針止めねじを手前に１～２回まわしてゆるめ、針を外します。

② 針の平らな面を向こう側に向けてピンにあたるまで差し込み、針止めねじを専用ドライバーでかたくしめます。

※ 正しく針が付けられていないと糸通しができないだけでなく、針がゆるんで針折れして危険です。

【針の調べ方】

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すき間が針先まで均等に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは針が折れ危険ですので使わないようにしてください。

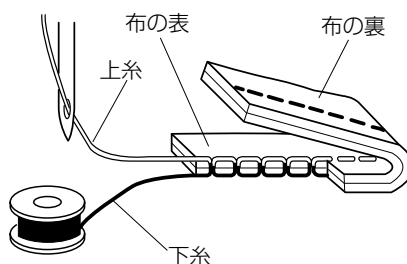
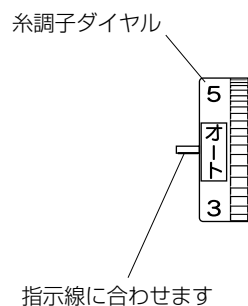
●布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル　90番	９番～11番
普通の布	シーチング ジャージー 一般ウール地	絹　糸　50番 綿　糸　60番～80番 ポリエステル、ナイロン 50番～90番	11番～14番
		綿　糸　50番	14番
厚い布	デニム ツィード コート地	絹　糸　50番 綿　糸　40番～50番 ポリエステル40番～50番	14番～16番
		絹　糸　30番 綿　糸　30番	16番

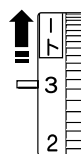
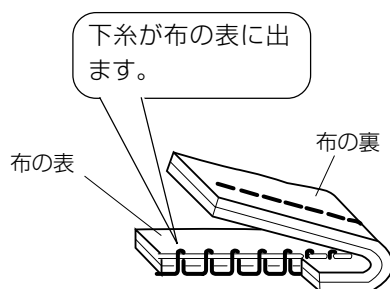
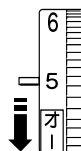
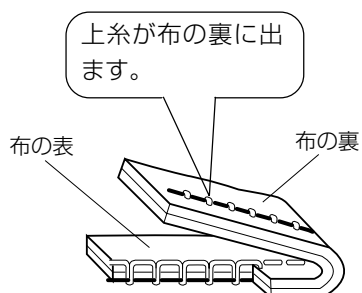
※一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。
この表を目安に針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。
※原則として、上糸と下糸は同じものを使用してください。
※伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャノメブルー針を使用すると防止効果があります。
（市販オルガンＳＰ針も同様の効果があります。）

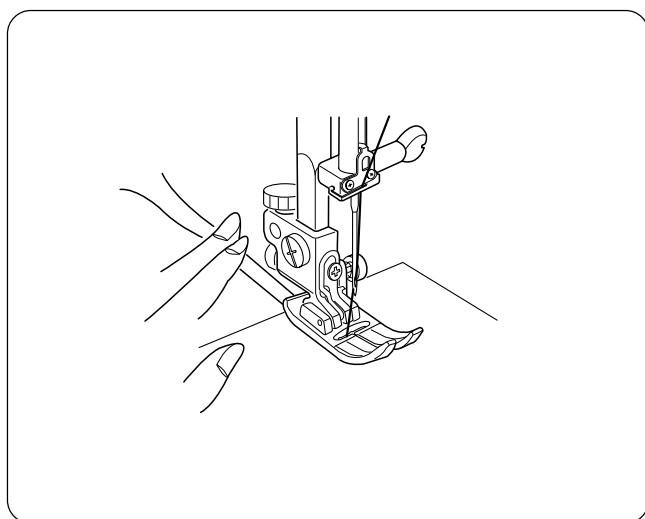
●糸調子の合わせ方

★自動糸調子

このミシンは、糸調子ダイヤルの「オート」を指示線に合わせると、普通のぬいのときにバランスよくぬえる糸調子に自動セットされます。

ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

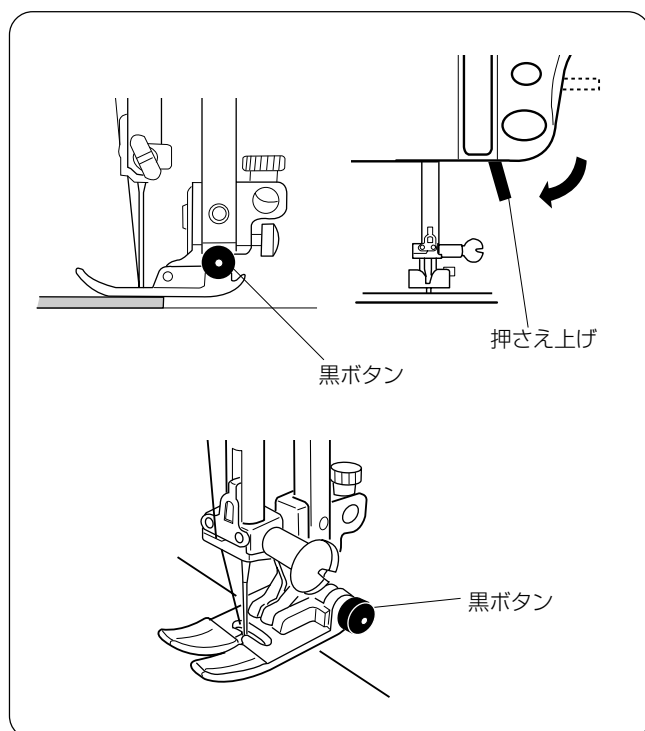
★マニュアル糸調子

糸調子のバランスがとれないときには、糸調子ダイヤルをまわして調節します。

◎実用ぬい

●直線ぬい

★ぬい始め

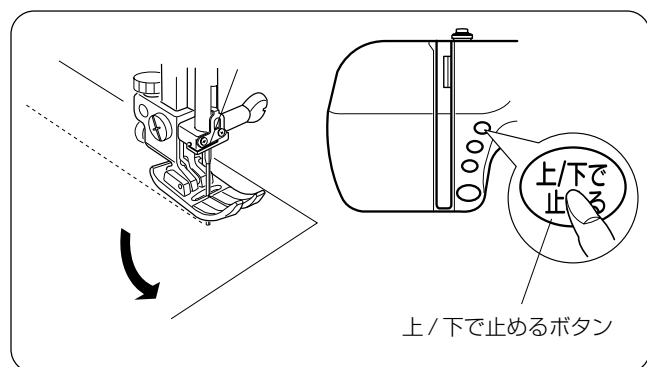
上糸と下糸を押さえの下を通して後ろ側に引き出し、はずみ車を手前にまわしてぬい始めの位置に針をさします。押さえをさげてぬい始めます。
※F:サテン押さえとR:ボタンホール押さえの場合は、上糸、下糸を横に引き出しておきます。

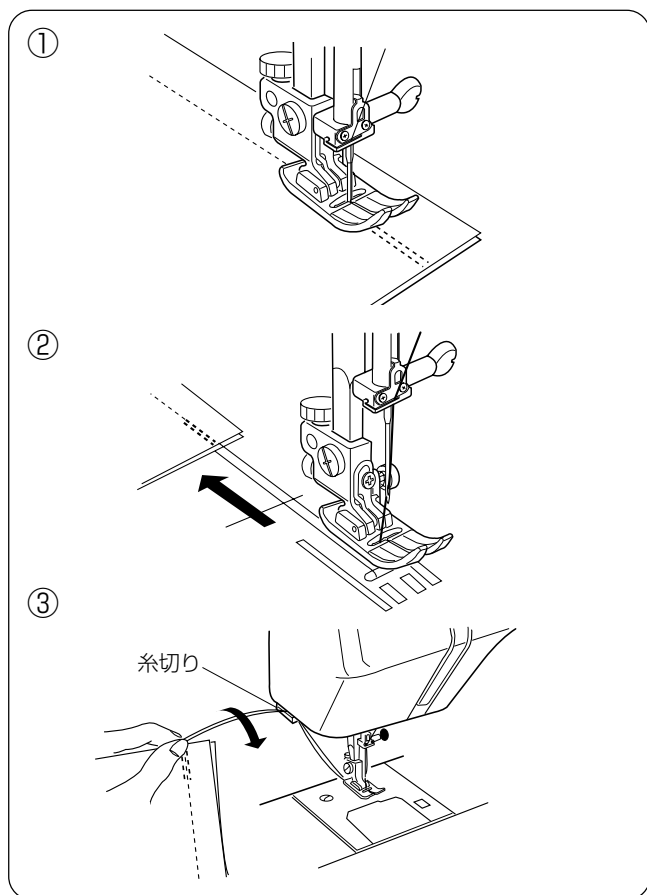
ぬい目のほつれを防ぐため、ぬい始めとぬい終わりに返しぬいをします。
※模様　　の場合は、ぬい始めは自動的に返しぬい（止めぬい）をします。ぬい終わりに返しぬいボタンを1度押すと、数針返しぬい（止めぬい）をして自動的に止まります。
（22 ページをごらんください。）

★厚い布の布端のぬい始め

① ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押しこみます。

② ボタンを押したままで押さえをさげます。
黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。

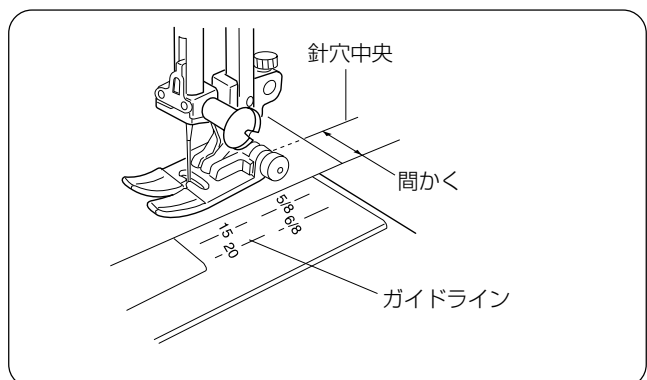
※ 黒ボタンを押した状態で押さえをさげると、押さえが水平に固定され、段部をスムーズにぬうことができます。ぬい始めると黒ボタンがもどり、押さえはもとの自由に動く状態になります。

★ぬい方向をかえるには

ミシンを止め、「上/下で止めるボタン」を押して針を布に刺し、押さえをあげます。
針を布に刺したまま、ぬい方向をかえます。

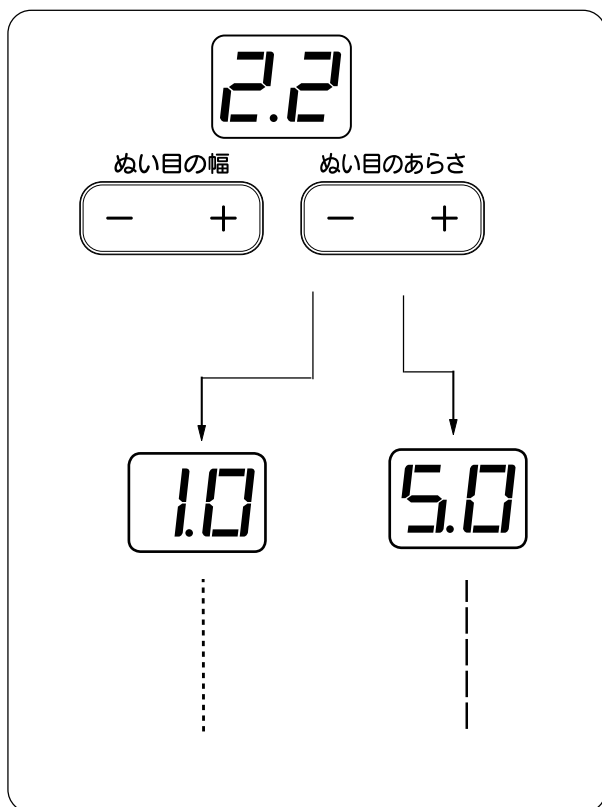
★ぬい終わり

① 返しぬいボタンを押しながら数針返しぬいをします。

② 押さえをあげて、布を後ろ側に静かに引き出します。

③ 布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

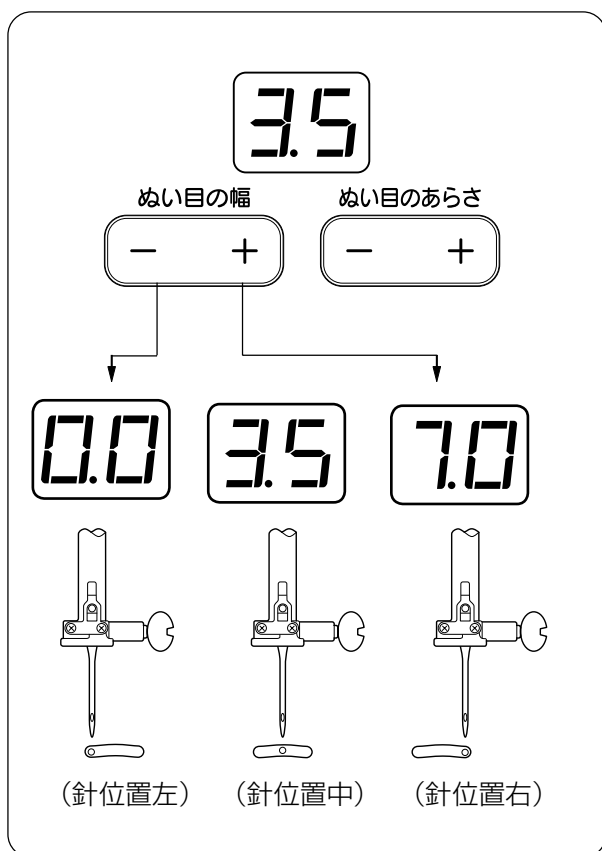
★針板ガイドラインの利用

布端を針板ガイドラインに合わせてぬいます。
※ガイドラインの数字は、針穴中央からガイドラインまでの間かくを「ミリメートル」と「インチ」で示しています。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間かく（cm）	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

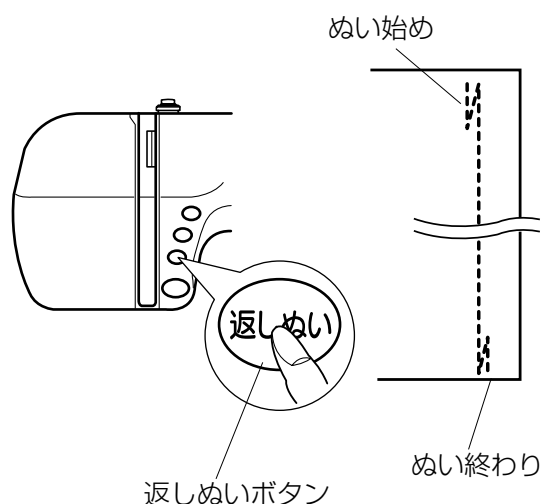
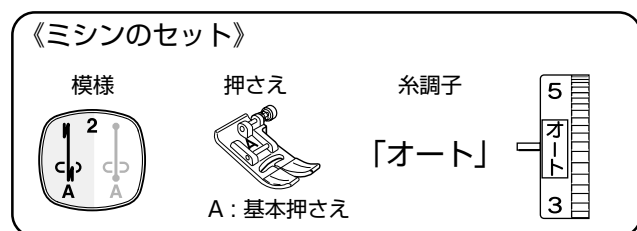
★ぬい目のあらさをかえるとき

「ぬい目のあらさ調節ボタン」でぬい目のあらさをかえることができます。
「－」側を押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目が細かくなりなす。
「＋」側を押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目があらくなります。

※ 0.0 ～ 5.0 の範囲でかえることができます。
長さの単位は、mm です。
※返しぬいのぬい目のあらさは、2.5mm以上にはなりません。

★針位置をかえるとき

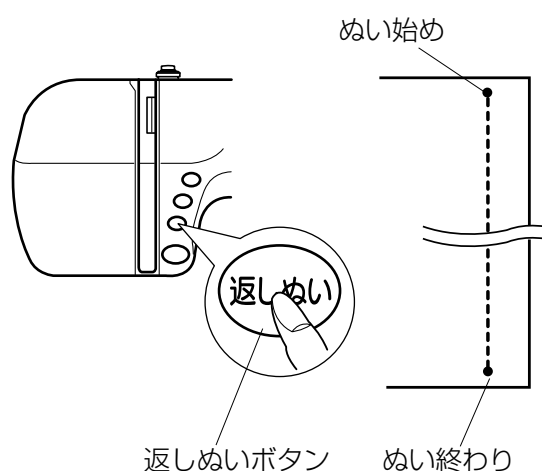
（針位置左）　（針位置中）　（針位置右）

「ぬい目の幅調節ボタン」で針位置をかえることができます。
「－」側を押すと針が左へ移動します。
「＋」側を押すと針が右へ移動します。

※直線状の模様 は、針位置をかえることができます。
※針位置が左にあるとき、基準位置とし「0.0」と表示しています。
針位置が右にあるときは、7.0mm右に寄っていますので「7.0」の表示になります。
針位置が中のときは、「3.5」の表示になります。

●自動返しぬい

ぬい始めとぬい終わりに自動的に返しぬいをします。

（スタート・ストップボタン使用時）
　ぬい始めの位置に針をさし、押さえをさげてスタートします。数針返しぬいをして直線ぬいになります。
　ぬい終わりにきたときミシンを止め、返しぬいボタンを１度押すと、数針返しぬいをして自動的に止まります。
　ミシンを止めないときも返しぬいボタンを１度押すと、数針返しぬいをして自動的に止まります。

（フットコントローラー使用時）
　ぬい始めの位置に針をさし、押さえをさげてスタートします。数針返しぬいをして直線ぬいになります。
　ぬい終わりにきたらミシンを止め、返しぬいボタンを１度押し、スタートすると数針返しぬいをして自動的に止まります。
　ミシンを止めないときも返しぬいボタンを１度押すと、数針返しぬいをして自動的に止まります。

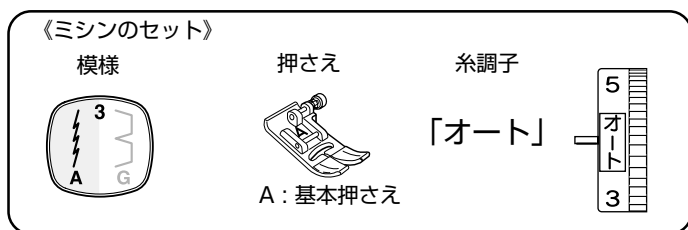
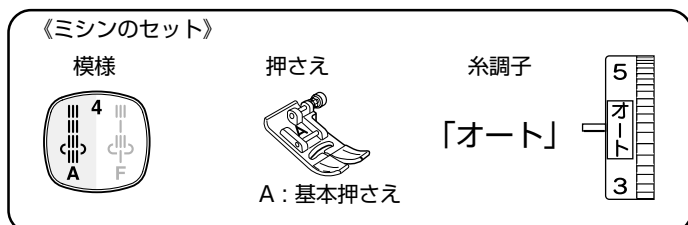
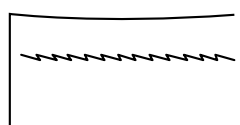
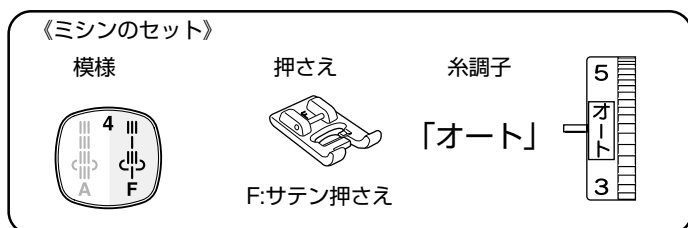
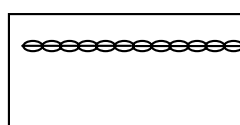
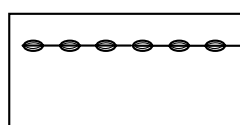
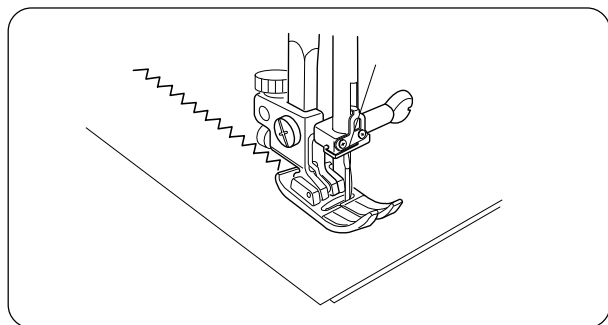
●自動止めぬい

ぬい始めとぬい終わりに自動的に止めぬいをします。

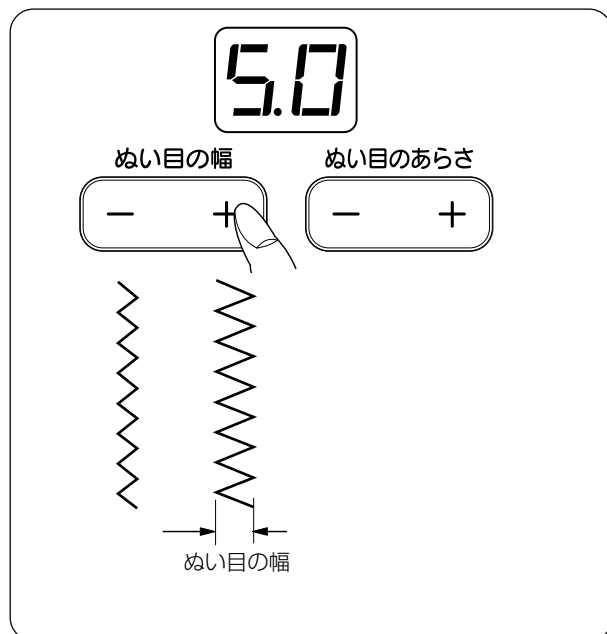
（スタート・ストップボタン使用時）
　ぬい始めの位置に針をさし、押さえをさげてスタートします。数針止めぬいをして直線ぬいになります。
　ぬい終わりにきたときミシンを止め、返しぬいボタンを１度押すと、数針止めぬいをして自動的に止まります。
　ミシンを止めないときも返しぬいボタンを１度押すと、数針止めぬいをして自動的に止まります。

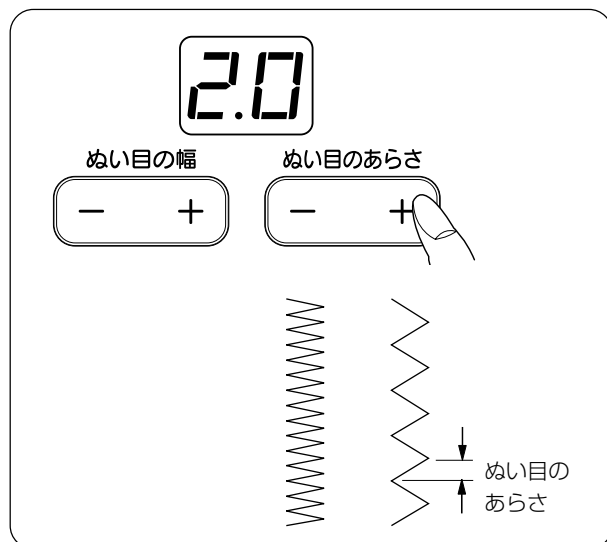
※ 止めぬいボタンを押しても数針止めぬいをして自動的に止まります。

（フットコントローラー使用時）
　ぬい始めの位置に針をさし、押さえをさげてスタートします。数針止めぬいをして直線ぬいになります。
　ぬい終わりにきたらミシンを止め、返しぬいボタンを１度押し、スタートすると数針止めぬいをして自動的に止まります。
　ミシンを止めないときも返しぬいボタンを１度押すと、数針止めぬいをして自動的に止まります。

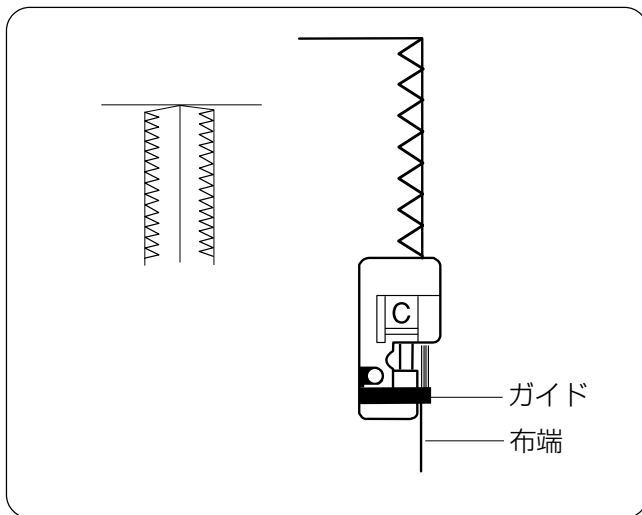
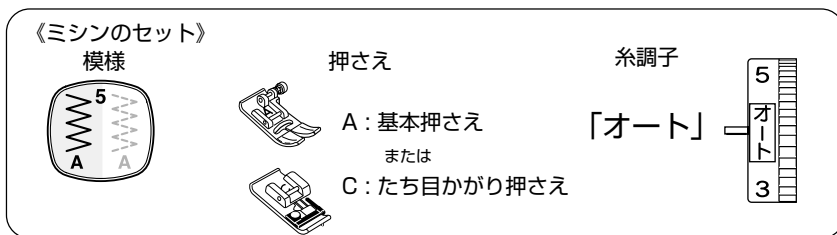
●直線状のぬい目いろいろ

端ぬいなどに使います。

ニット地のぬい合わせに使用します。
布が伸びても、糸が切れにくい伸縮性のあるぬい目です。

厚地、ニット地の地ぬいや補強ぬいに使います。

飾りぬいで、図案の輪郭をはっきりさせたいときなどに
使用します。
※カーブをぬうときは、ゆっくりぬいます。

●ジグザグぬい

伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には芯地を貼るときれいにぬえます。

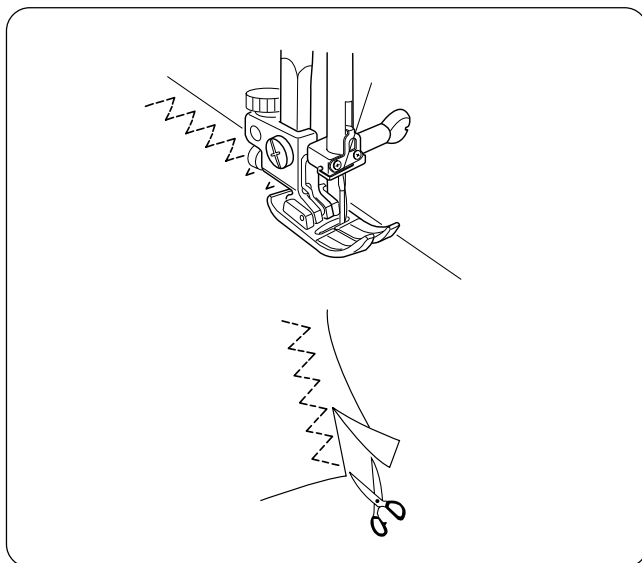
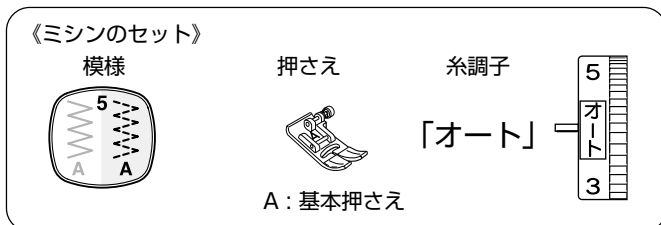
★ぬい目の幅をかえるとき

「ぬい目の幅調節ボタン」でぬい目の幅をかえることができます。
「−」側を押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目の幅がせまくなりなす。
「＋」側を押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目の幅がひろくなります。
※運転中でもかえられます。
※ 0.0 ～ 7.0 の範囲でかえることができます。
　長さの単位は mm です。

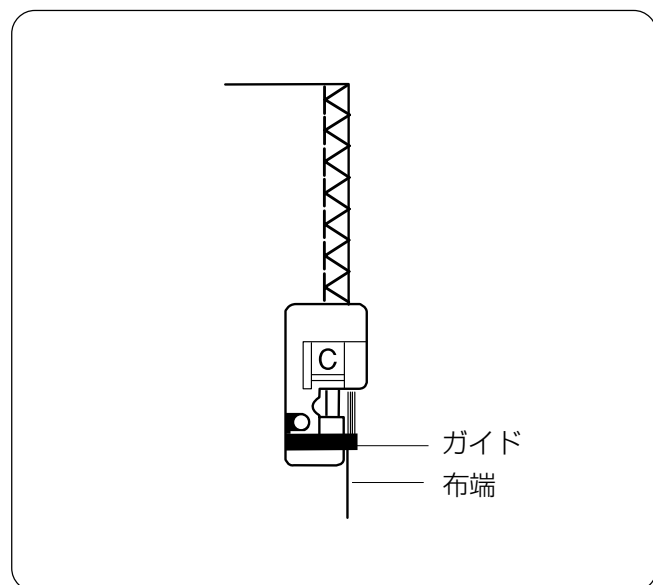
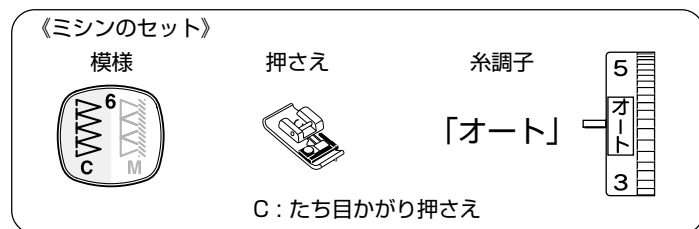
★ぬい目のあらさをかえるとき

「ぬい目のあらさ調節ボタン」でぬい目のあらさをかえることができます。
「−」側を押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目が細かくなりなす。
「＋」側を押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目があらくなります。
※運転中でもかえられます。
※ 0.2 ～ 4.5 の範囲でかえることができます。
　長さの単位は、mm です。
※返しぬいのぬい目のあらさは、2.5mm以上にはなりません。

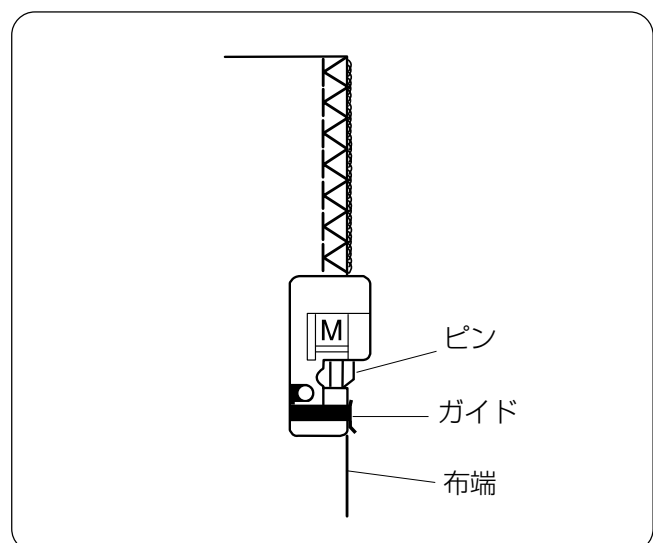
●たち目かがり

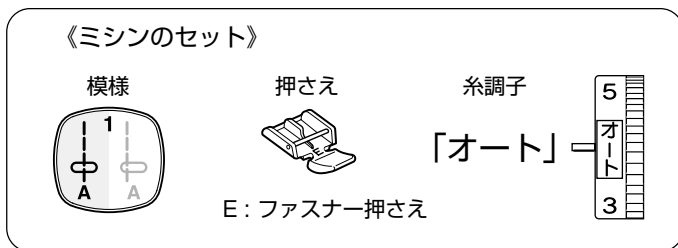
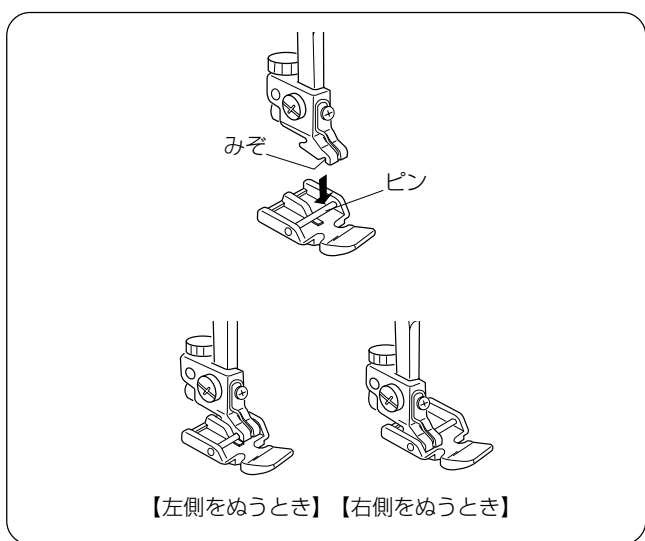
★ジグザグぬいたち目かがり

布端をたち目かがり押さえのガイドにあててぬいます。布端のほつれ止めとして広く利用します。

※たち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の幅は、5.0～7.0でぬいます。

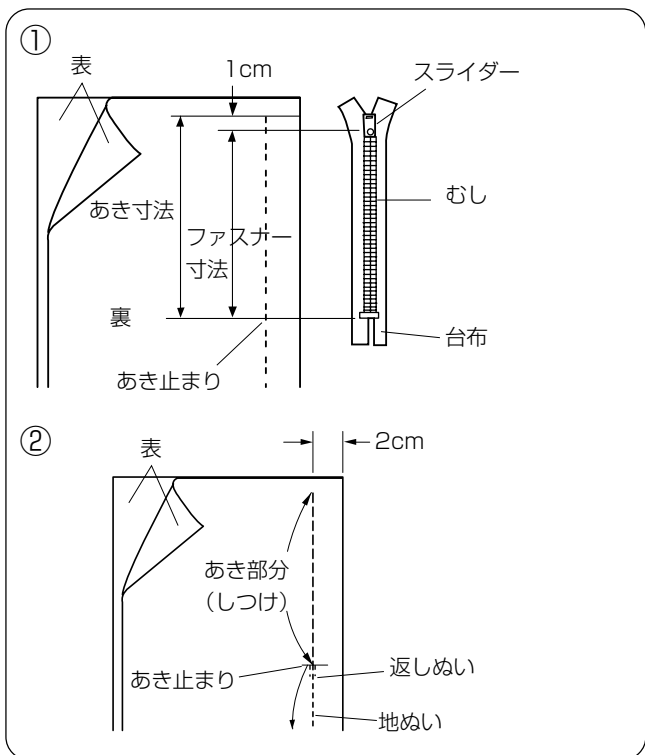
★トリコットぬいたち目かがり

ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

★かがりぬい（1）

地ぬいをかねたかがりぬいです。また、たち目のほつれ止めとしても使えます。
布端を押さえのガイドにあててぬいます。
※ぬい目の幅は、5.0～7.0 でぬいます。

★かがりぬい（２）

オーバーロックのぬい目に似ていて、布端がほつれやすい布地のかがりぬいに利用します。
布端を押さえのガイドにあててぬいます。
※ 押さえ外側のピン横で、上糸と下糸がからみあうよう糸調子ダイヤルで調整します。
※ ぬい目の幅はかえられません。

●ファスナー付け

※ファスナー押さえを使用するときは必ず模様 ⏀（針位置中）を使用し、はずみ車を手でまわして針が押さえに当たらないことを確認してください。

【ファスナー押さえの取り付け方】

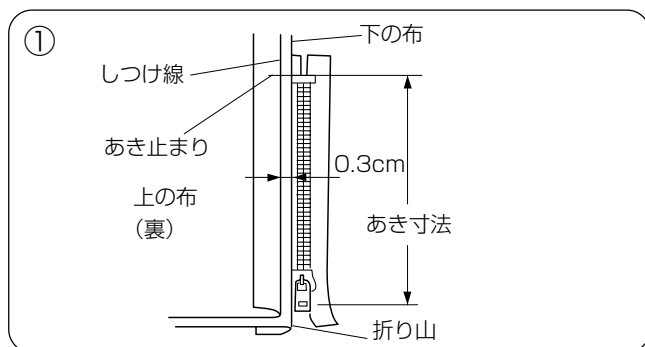
むしの左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて、押さえの右側にセットします。
むしの右側をぬうときは、押さえの左側にセットします。

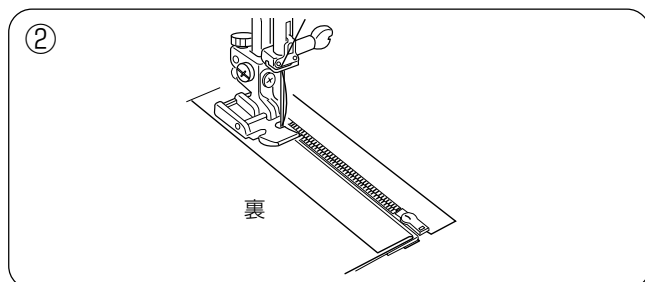
【準備】例：左脇あきのぬい方

① ファスナーのあき寸法を確かめます。あき寸法はファスナー寸法に 1cm プラスした寸法です。

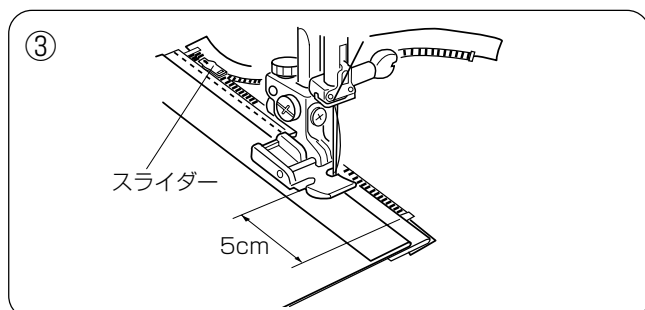
② しつけと地ぬいをします。
布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。

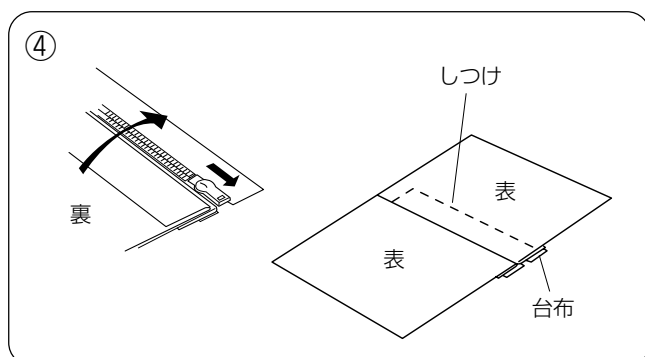
※ 地ぬいの部分は、A:基本押さえを使ってぬいます。

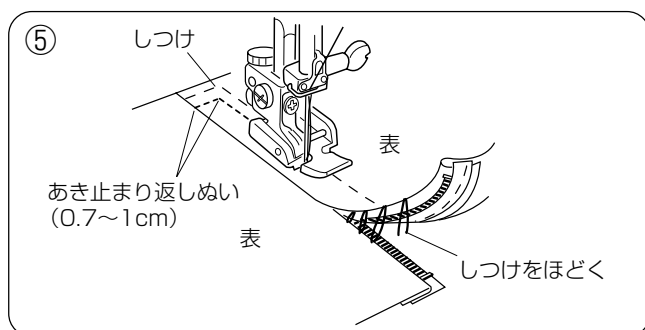
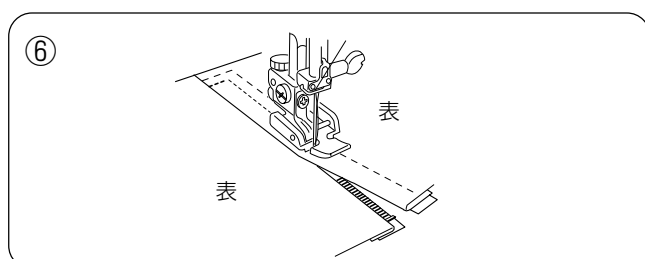
あき部分は、ぬい目のあらさ 0.5cm でしつけぬいをします。

※ しつけは、ほどきやすいように糸調子を「1」くらいにしてぬい（しつけ）ます。
しつけが終わったら、ぬい目のあらさ、糸調子をもとの値にもどしてください。

【ぬい】

① ぬいしろをわり、下の布のぬいしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

② ファスナー押さえの右側を押さえホルダーにセットして、むしのきわに押さえの端を当てて、あき止まりからぬいます。

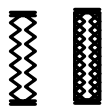
※ ぬい始めのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

③ ファスナーの端から5cmほど手前でミシンを止め、針を布にさします。
押さえをあげてスライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえをさげて残りの部分をぬいます。

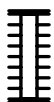
※ ぬい終わりの返しぬいは、数針返しぬいをします。

④ ファスナーをとじ、スライダーを上にたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。
かぶせた布と台布をしつけで止めます。

※しつけは、A基本押さえを使用します。
しつけは、ほどきやすいように糸調子を「1」くらいにしてぬい（しつけ）ます。
しつけが終わったら、ぬい目のあらさ、糸調子をもとの値にもどしてください。

⑤ ファスナー押さえの左側を押さえホルダーにつけかえ、上の布のあき止まりを（0.7〜1cm）返しぬいし、むしのきわに押さえの端をあてててぬいます。
ファスナーの上側を5cmほど残したところで止め、はずみ車をまわして針をさげ、針を布にさしたままで押さえをあげて、【準備】の手順②でぬったしつけ糸をほどきます。

⑥ スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえをさげて残りの部分をぬいます。ぬい終わったら手順④でぬったしつけ糸をほどきます。

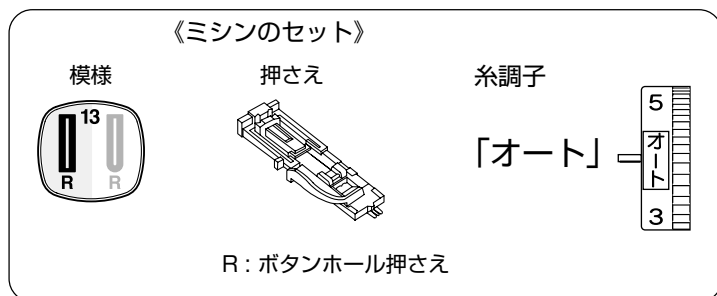
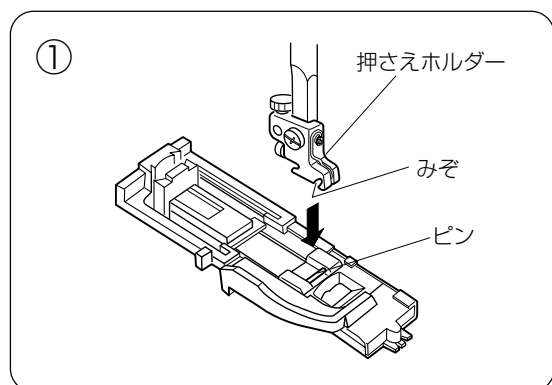
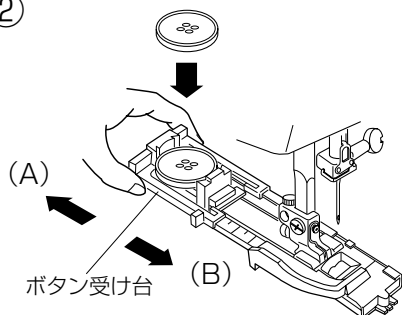
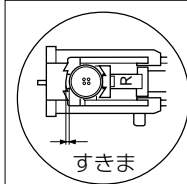
●ボタンホール

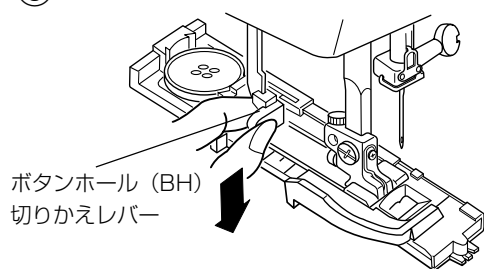
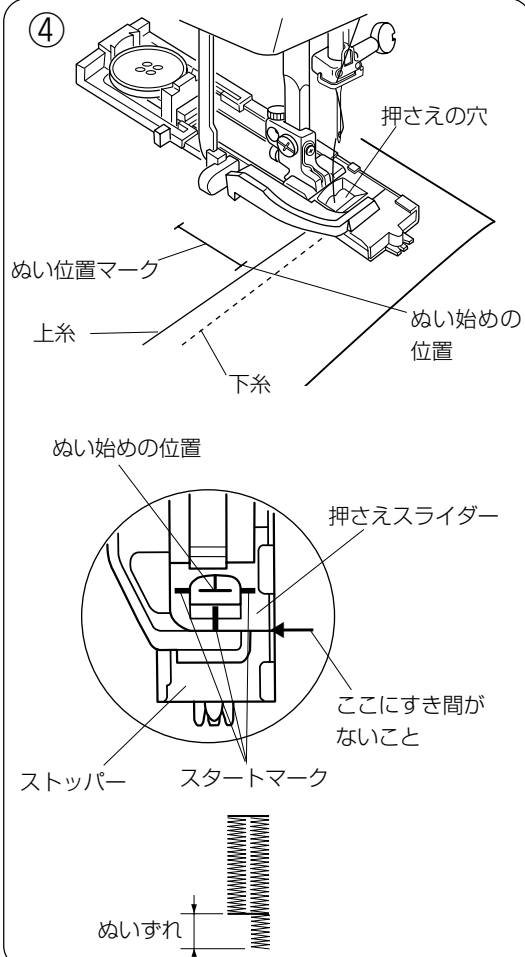
★ボタンホールの種類と用途

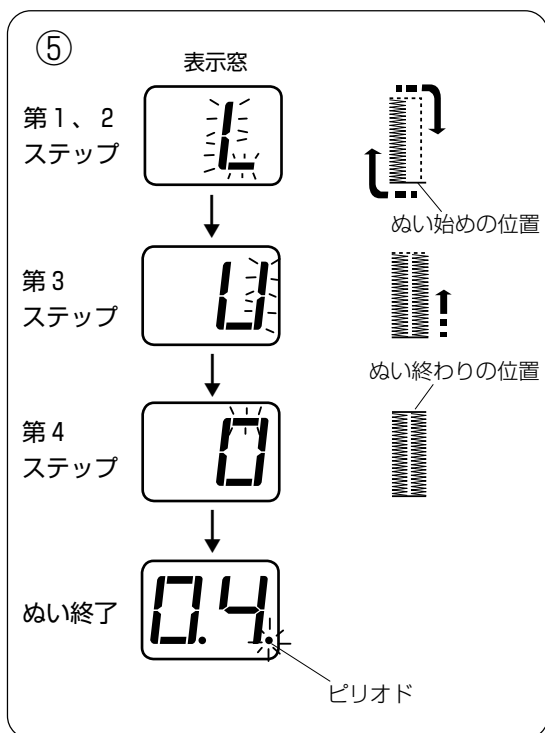
スクエアボタンホール
シャツ、パジャマ、ブラウスなどに利用します。

ニットボタンホール
伸縮性のある布に利用します。
また、飾りボタンホールとしても使います。

片ラウンドボタンホール
ブラウス、子供服などに利用します。

薄地用ボタンホール
手ぬい風の仕上がりになるボタンホールで、飾りぬいボタンホールとしても使います。

キーホールボタンホール
ジャケットなどに利用します。大きく厚めのボタンはキーホールボタンホールがよく使われます。

★スクエアボタンホール（ ▯)のぬい

※ ボタンホールの大きさは、使用するボタンをボタンホール押さえのボタン受け台にはさみこむと自動的に決まります。
※ ボタンの直径が 1.0 ～ 2.5cm まで、ボタンホールができます。
※ 必ず試しぬいをして、正しくぬえることを確認してください。
※ 伸縮性のある布には、伸び止めのため、裏に芯地を貼ります。

① 針と押さえをあげます。
押さえホルダーのみぞと、押さえのピンを合わせ、押さえをさげてボタンホール押さえをセットします。

② ボタン受け台を（A）方向に引き、ボタンをのせて（B）方向にもどしはさみます。

※ボタン受け台のすきまをあけて位置決めすると、その分大きなボタンホールができます。

③ ボタンホール（ＢＨ）切りかえレバーを止まるまでいっぱいに引きさげます。

④ 押さえをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
布を入れ、押さえのスタートマークとぬい始めの位置を合わせ、ぬい始めの位置にはずみ車をまわして針をさし、押さえをさげます。

※ ぬい始めに、押さえスライダーとストッパーの間にすき間がないことを確認してください。すき間があるとぬい終わったときぬいずれがおこることがあります。

⑤ スタート・ストップボタンを押し、ミシンをスタートしてぬいます。

[ぬっていく順序]

第1、第2ステップ .... かんぬきと左側のラインタックをぬいます。

第3ステップ .... 右側のラインタックをぬいます。

第4ステップ .... かんぬきと止めぬいをして自動的に止まります。

※ ピリオドの点滅は、重ねぬいができる状態を示します。（33ページをごらんください。）

※「上/下で止めるボタン」で下位置に設定しておいても、ぬい終わったときには、針は上位置で止まります。

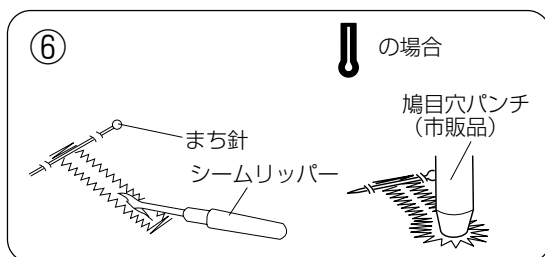
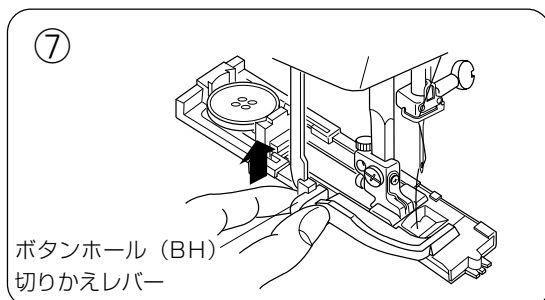
※ ぬっているステップが表示され、点滅します。

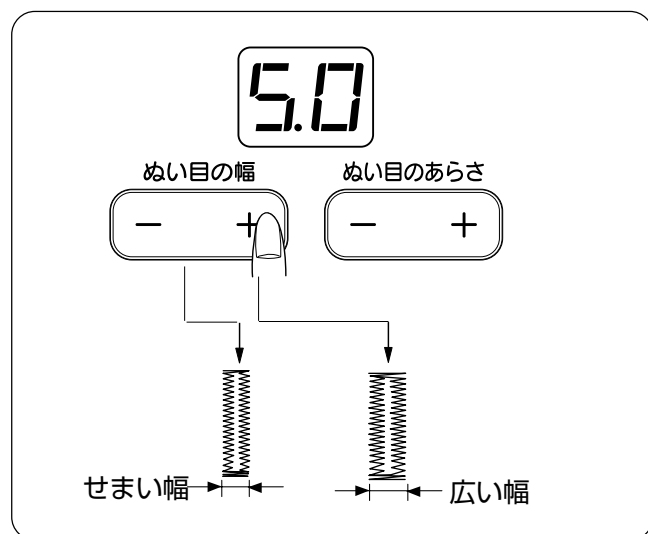
※ 停止中は、上記ぬいステップ表示が送り表示にもどります。

【ぬい中にこんな表示が出た場合】

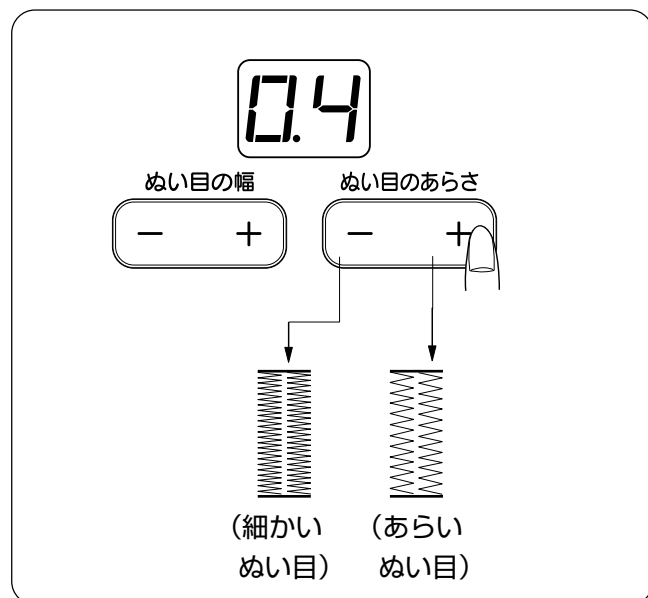
ボタンホール（BH）切りかえレバーを引きさげないでボタンホールをぬうと表示されミシンが止まります。ボタンホール（BH）切りかえレバーをさげて、再スタートします。

【模様を選ぼうとしてこんな表示が出た場合】

ボタンホールの後に押さえ上げ、または、ボタンホール（BH）切りかえレバーをさげたまま、他の模様を選んだ時に1度表示されます。
ぬい終わったら押さえ上げ、または、ボタンホール（BH）切りかえレバーをあげてください。

⑥ かんぬきの内側にまち針をわたして、シームリッパーでかがった糸を切らないように切りひらきます。

⑦ ぬい終わったらボタンホール（BH）切りかえレバーを止まるまでいっぱいに押しあげてもどします。

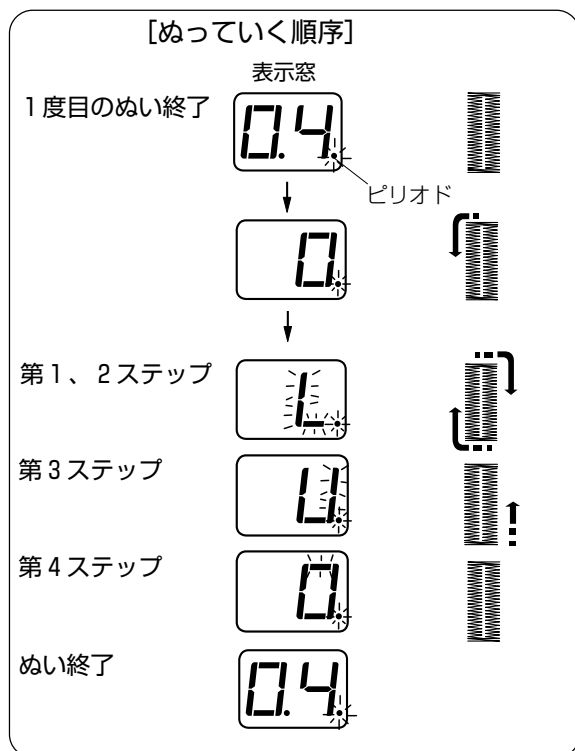
★ボタンホールの幅をかえるとき

「ぬい目の幅調節ボタン」を押します。

「－」側を押すと幅はせまくなります。
「＋」側を押すと幅は広くなります。

★ボタンホールぬい目あらさをかえるとき

「ぬい目のあらさ調節ボタン」を押します。
「－」側を押すとあらさは細かくなります。
「＋」側を押すとあらさはあらくなります。

※ ボタンホールの幅、ぬい目あらさを変更したら試しぬいを行います。
ぬい途中で止め、押さえをあげ、再スタートした場合、模様の最初からぬい始めます。

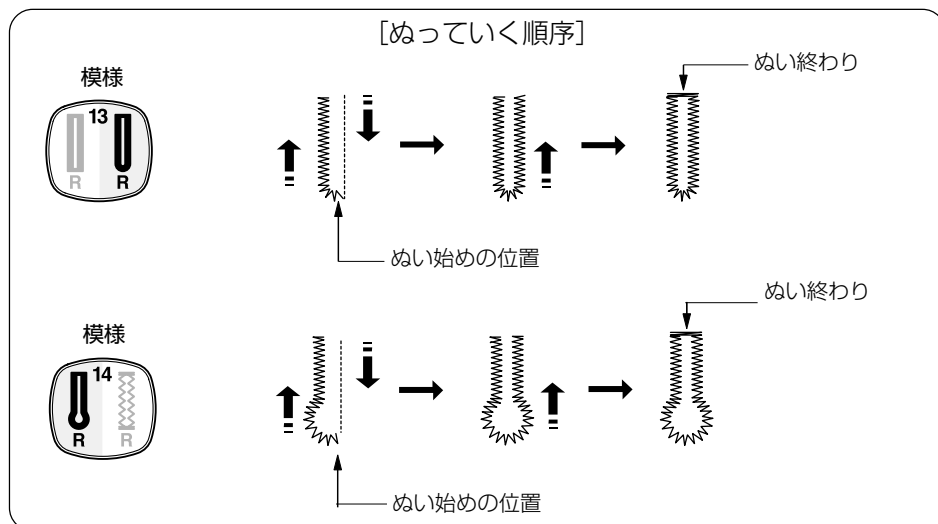
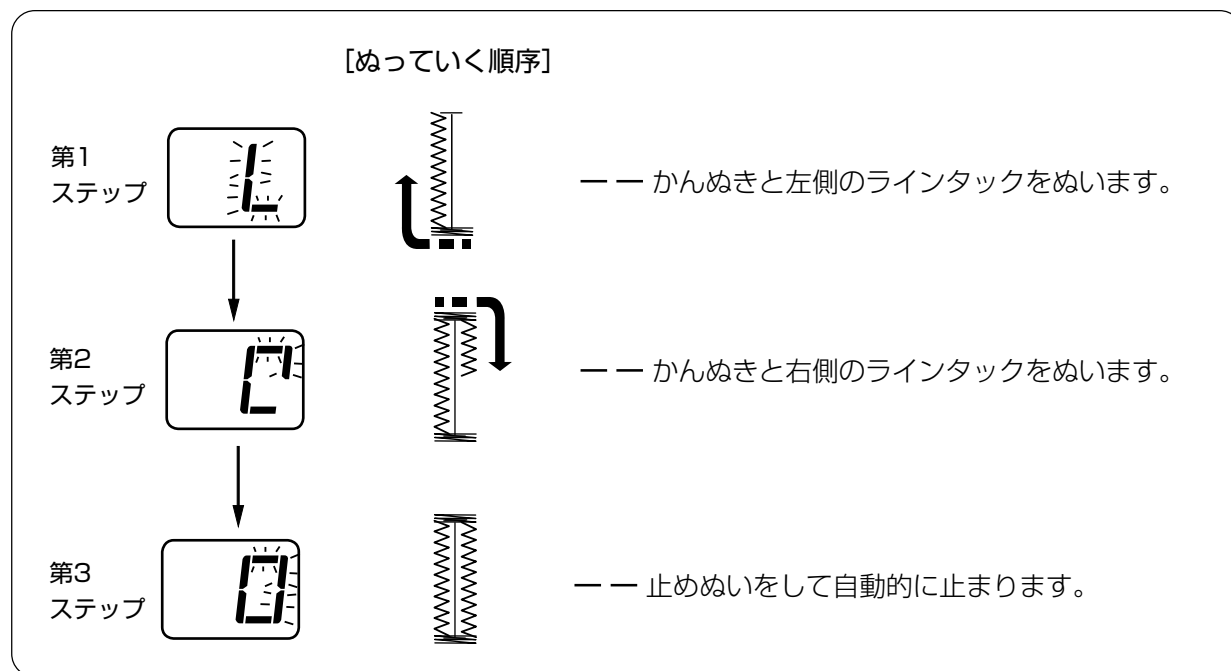
★ボタンホール重ねぬい（ボリューム感のあるボタンホールができます。）

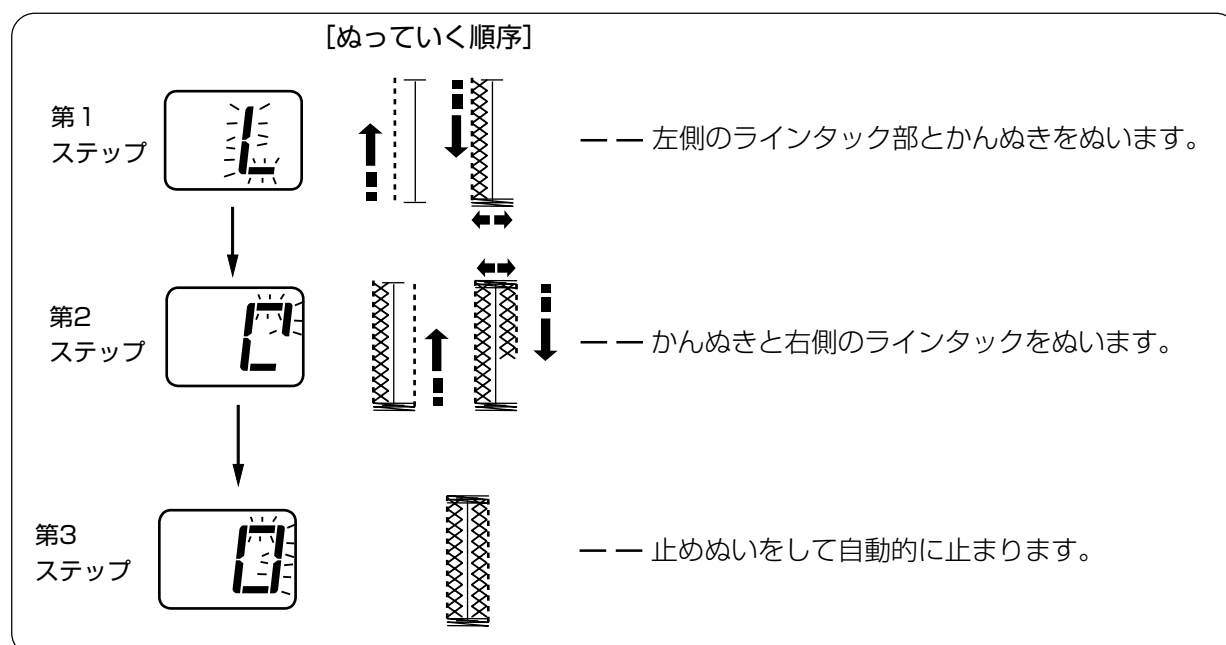
※ボタンホールの重ねぬいをする場合には、1回目のぬいを確実に終了させたあと、そのまま押さえをあげないで、再スタートしてください。

① 1度目のボタンホールをぬいおわったら押さえ上げをさげたまま、スタート・ストップボタンを押すと、自動的に重ねぬいをします。

※ ピリオドの点滅は、重ねぬいできる状態を示しています。

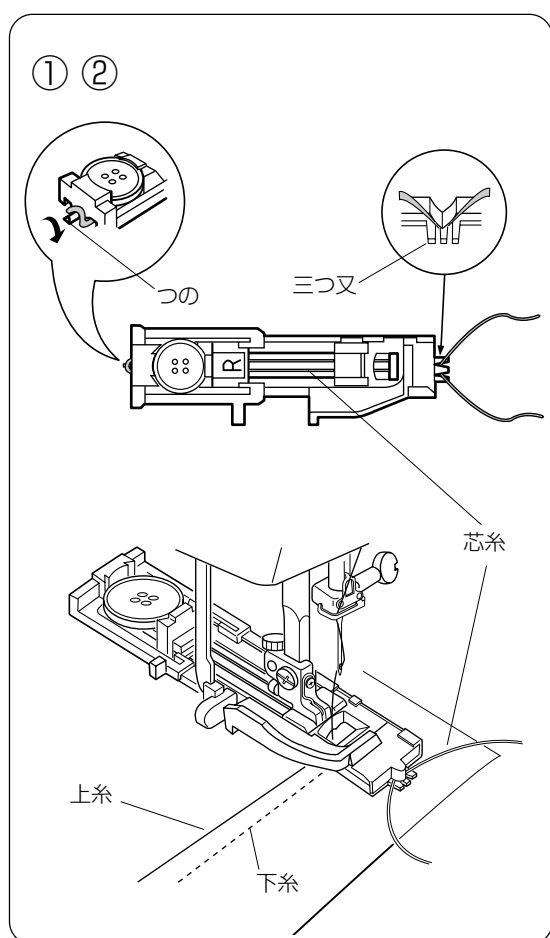
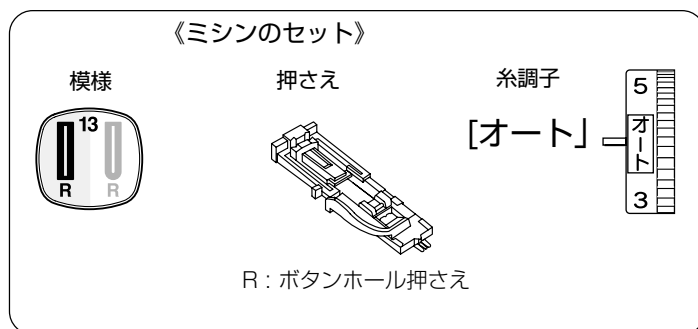
※ 第1ステップぬい始め位置まで下ぬいをします。

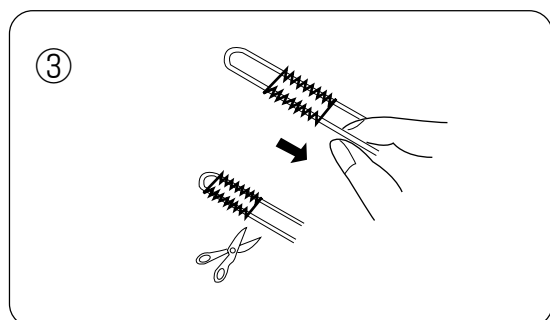
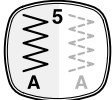
② 自動的に第1～第4ステップをぬって自動的に止まります。

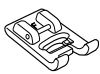
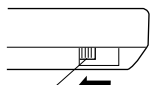
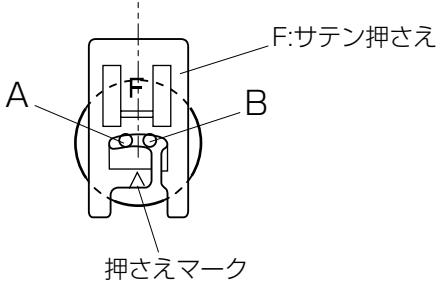
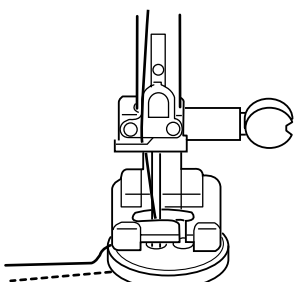
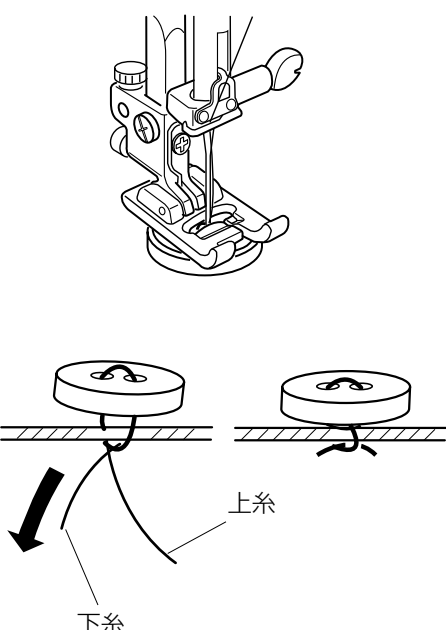
★ボタンホール（　　）のぬい

※ミシンのセット、ぬい方はスクエアボタンホール と同じです。（29～31ページをごらんください。）

★ボタンホール（ ）のぬい

※ミシンのセット、ぬい方はスクエアボタンホール と同じです。（29～31 ページをごらんください。）

★ボタンホール（ ）のぬい

※ミシンのセット、ぬい方はスクエアボタンホール と同じです。（29～31 ページをごらんください。）

●芯入りスクエアボタンホール

① 芯糸の輪を押さえの後ろ側にあるつのにかけ、押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。

② スクエアボタンホールのぬい手順と同じようにぬいます。

③ 左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。

※ 穴のあけ方は、31 ページをごらんください。

●ボタン付け

① ボタンをサテン押さえマークの中心に置き、「ぬい目の幅調節ボタン」の「－」側または「＋」側を押し、ボタン穴の幅に針がおりるよう調節します。

【ボタン穴とぬい目の幅の合わせ方】
ボタン穴の幅を計り、「ぬい目の幅調節ボタン」でボタン穴の幅をセットします。A穴に左針位置を合わせると、B穴位置の針位置は決まります。

② ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押さえをさげます。

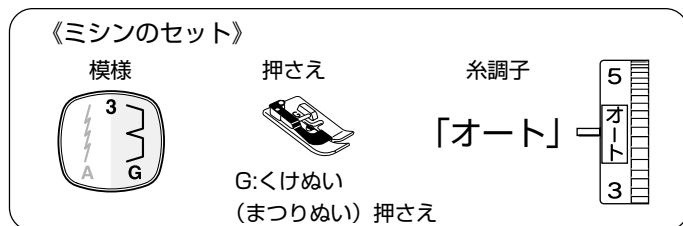
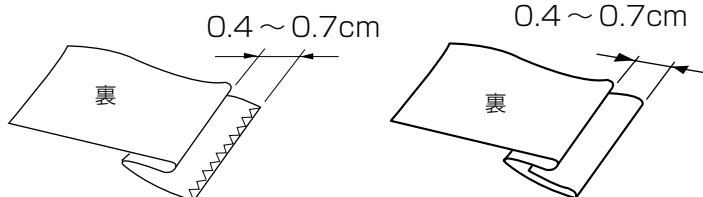
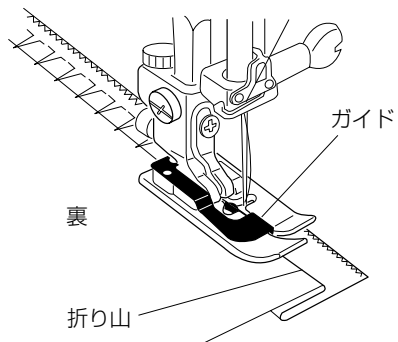
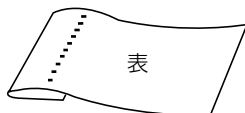
③ はずみ車を手前にまわして、針が左右の穴におりることを確かめます。

④ 10針くらいぬったらミシンを止めます。

※ ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。

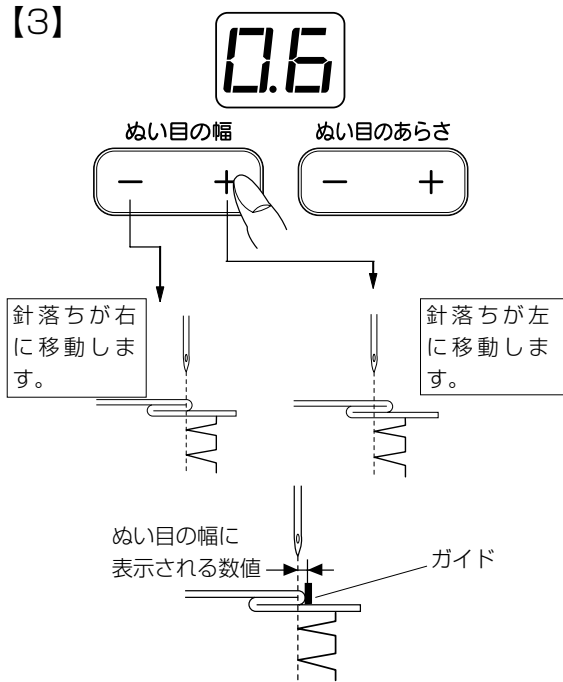
⑤ 押さえをあげて布を引き出し、上糸と下糸を20cmくらい残して切ります。ぬい終わりの下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

※ ぬい終わったらドロップつまみを送り歯をあげる位置にもどしておきます。送り歯はミシンが回転すると自動的にあがります。

●くけぬい（まつりぬい）

【1】布の折り方

【2】ぬい

① ガイドに折り山を合わせ、針が折り山から外れないように「ぬい目の幅調節ボタン」で針位置を調節してぬいます。

② ぬい終わったら布をひろげます。

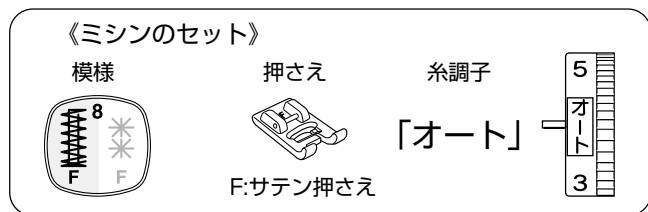
※ 左側におりる針が必要以上にかかりすぎると、表にでるぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりませんので注意してください。

【3】針位置をかえたいとき

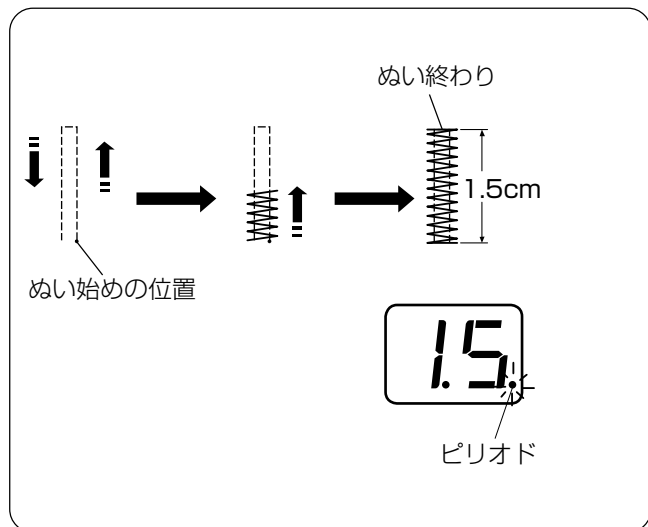
「ぬい目の幅調節ボタン」「－」側、または「＋」側を押して、針位置を調節します。

自動セットされている数値 0.6 が表示されます。
※表示 0.6 はガイドから針位置が左にきたときの幅を示します。

※模様　は、ぬい目の幅は変化せずガイドからの針位置がかわります。

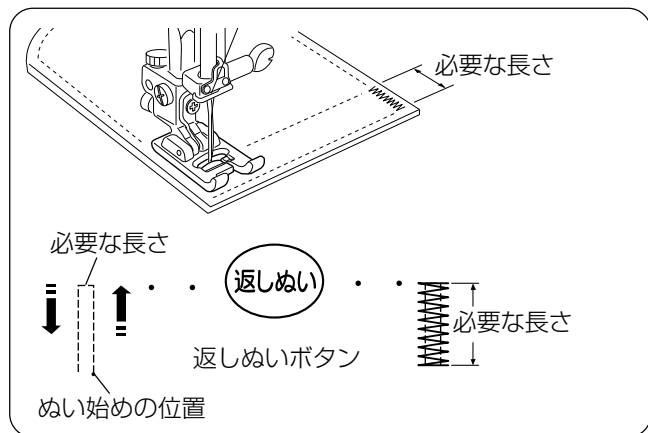
針が折り山にかからない場合「ぬい目の幅調節ボタン」「＋」側を押して針位置を左に移動させせます。

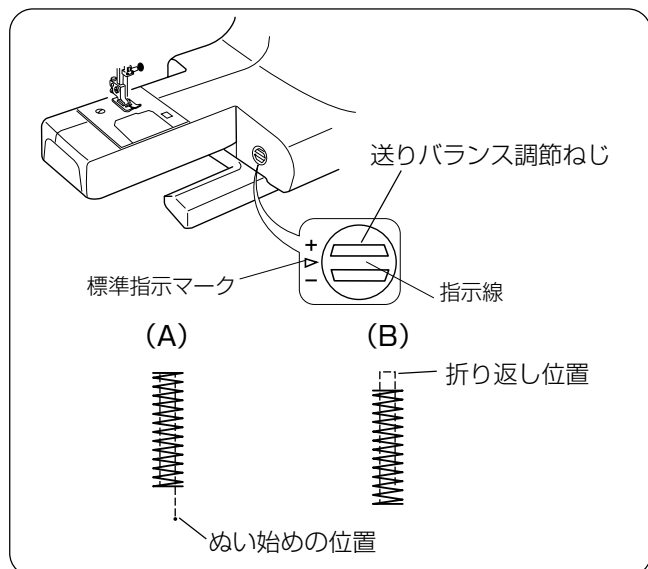
針が折り山にかかりすぎる場合「ぬい目の幅調節ボタン」「－」側を押して針位置を右に移動させせます。

●かんぬき止めぬい

※ぬい目に力がかかって、ほつれやすい部分などに使うと、ぬい目がしっかりします。

1 回のぬいで、オート値の場合、長さ約 1.5cm が自動的にぬえます。

※ ぬい目の幅は（1.0〜5.0）、ぬい目のあらさは（1.0〜2.5）の間でかえられます。

※ ぬい終わると、ピリオドが点滅して、かんぬき止めの長さを記憶したことを示します。
くり返し同じ長さのかんぬき止めぬいができます。
かんぬき止めの長さをかえたいときには、模様選択ボタンを再度押します。このときピリオドの点滅は消えます。

※ 「上/下で止めるボタン」で下位置に設定しておいても、ぬい終わったときには、針は上位置で止まります。

【1.5cmより短い長さでぬう場合】

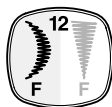
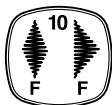
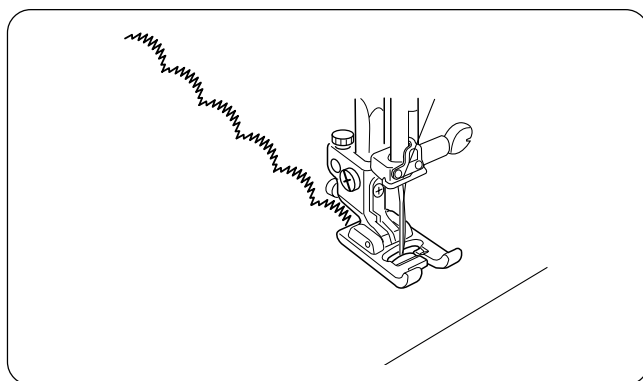
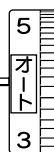
1.5cm より短い長さでぬうときは、必要な長さまでぬい、返しぬいボタンを押すとその長さが決まります。別の場所にぬうと、くり返し同じ長さのかんぬき止めがぬえます。

【模様位置ずれの整え方】

模様の位置がずれる場合には、実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送りバランス調節ねじで調節してください。

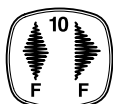
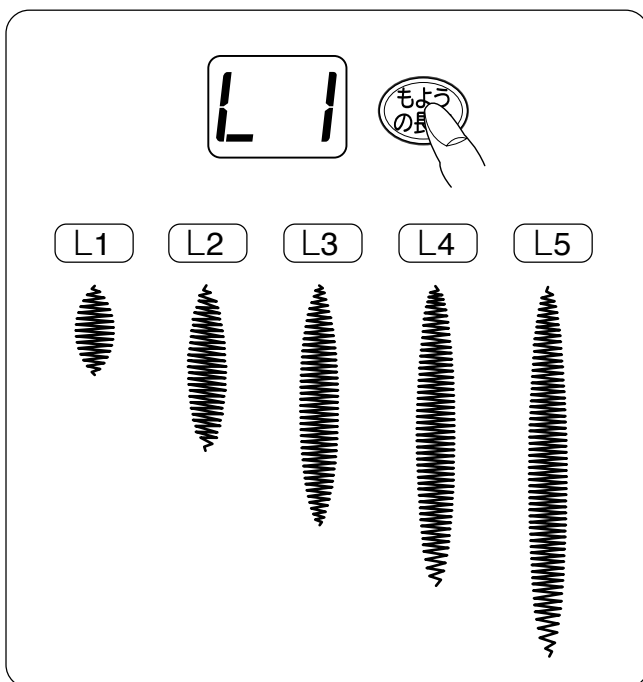
（A）ぬい始めの位置が残ってしまうとき
.... 送りバランス調節ねじを「+」方向にまわします。
（B）折り返し位置が残ってしまうとき
.... 送りバランス調節ねじを「−」方向にまわします。

※送りバランス調節ねじをまわして、ぬいが終わったら、必ず送りバランス調節ねじの指示線を標準指示マークに合わせておきます。

◎応用ぬい

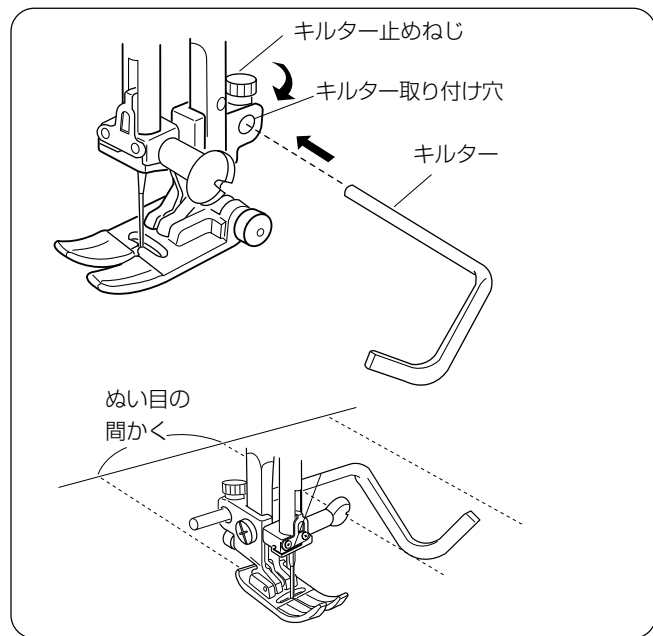
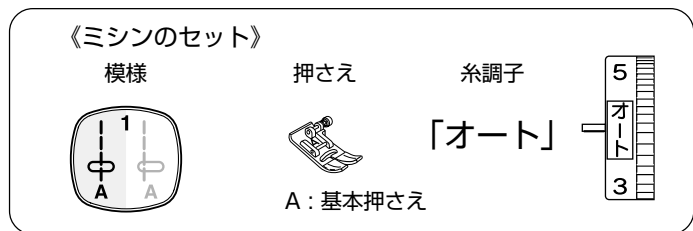
●サテン（密着）模様ぬい

布が縮むときは、下に紙を敷くか、または芯地を貼るときれいに仕上がります。

※必要な模様数の最後のぬい途中で、「止めぬいボタン」を押すと、その模様を完成させてから止めぬいをして自動的に止まります。

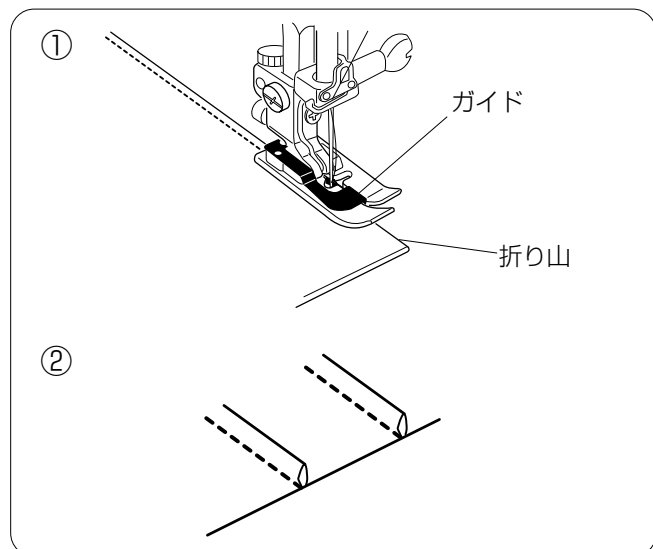
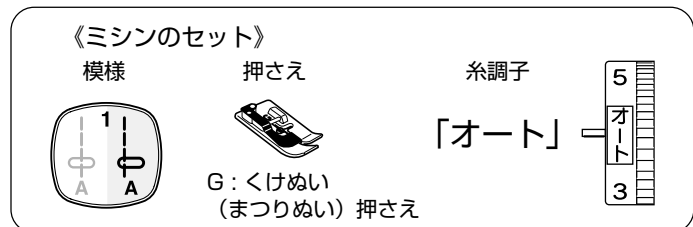
●模様の長さ調節

① 「もようの長さ調節ボタン」を押します。
模様長さはＬ１（１倍)、Ｌ２（２倍)、Ｌ３（３倍)、Ｌ４（４倍)、Ｌ５（５倍）で表示されます。
L5の次はL1にもどります。

② ミシンをスタートしてぬいます。

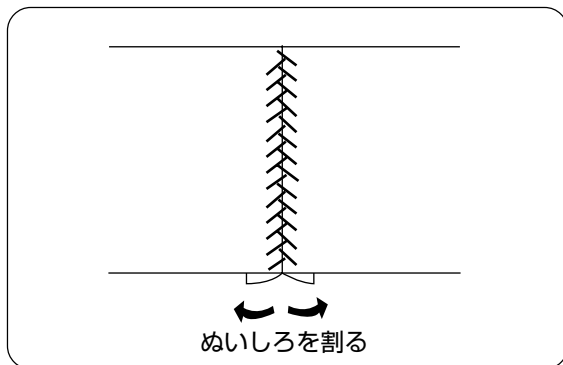
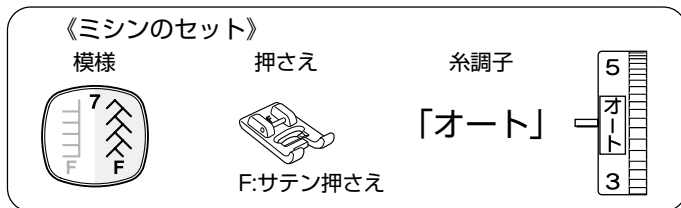
※ ぬい途中で「止めぬいボタン」を押すと、その模様を完成させてから止めぬいをして自動的に止まります。

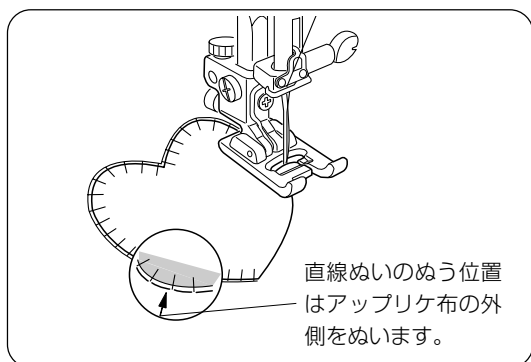
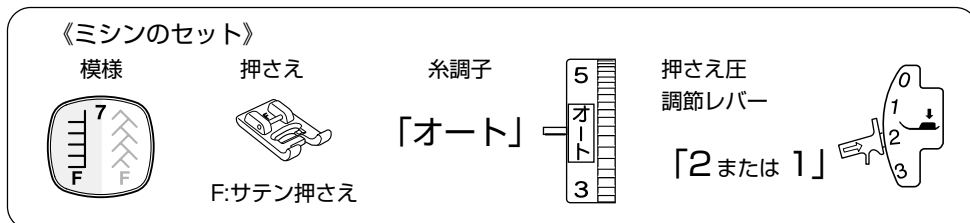
●キルティング

キルター止めねじをゆるめて、キルターをキルター取り付け穴に入れ、ぬい目の間かくに合わせて、止めねじをしめます。

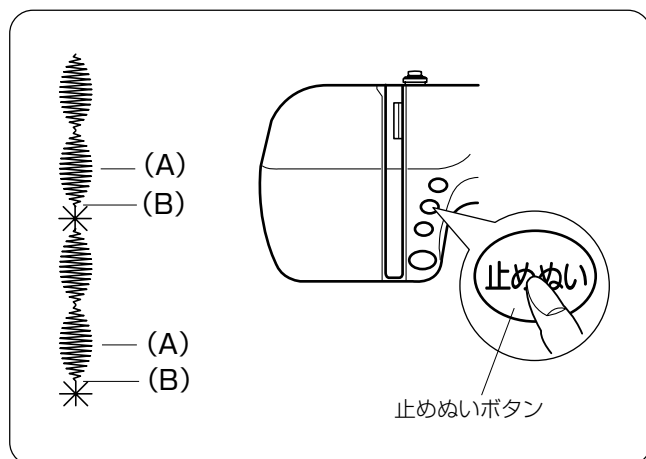
※キルターは、前にぬったぬい目をたどるのに使います。

●ピンタック

① 布の折り山をガイドに合わせてぬいます。

② ぬい終わったら片返しにして、アイロンをかけ、整えます。

●パッチワーク

布を中表に合わせ、地ぬいをしてぬいしろを割ります。
※地ぬいは、A:基本押さえを使用します。
布の表から地ぬいの線を中心にしてぬいます。

●アップリケ

台布にアップリケ布をのり付けするか、しつけで止めます。
※ カーブや方向転換するところでは、ミシンを止めます。はずみ車を手で手前にまわし、針をアップリケ布の外側にさします。
押さえをあげ、針を布にさしたままで方向を変えます。
※ ぬい終わったら、押さえ圧調節レバーを「3」にもどします。

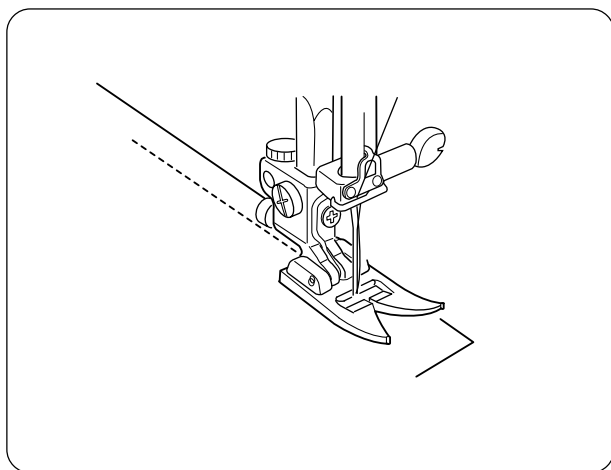
●止めぬいボタンを使った飾りぬい

① 模様 を選び、ぬっている途中（A）で「止めぬいボタン」を押し、自動的に止まるまでぬいます。

② 模様 を選びます。

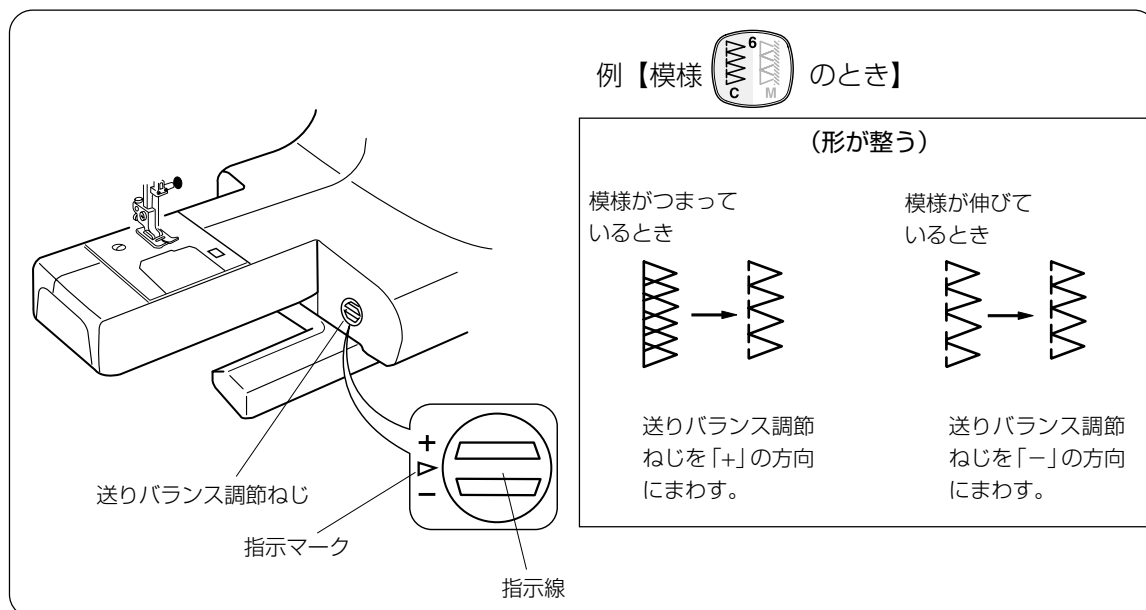
③ ぬいの前（B）に「止めぬい」ボタンを押します。
（ぬっている途中でもかまいません。）

④ 模様 を１つぬって、自動的に止まります。

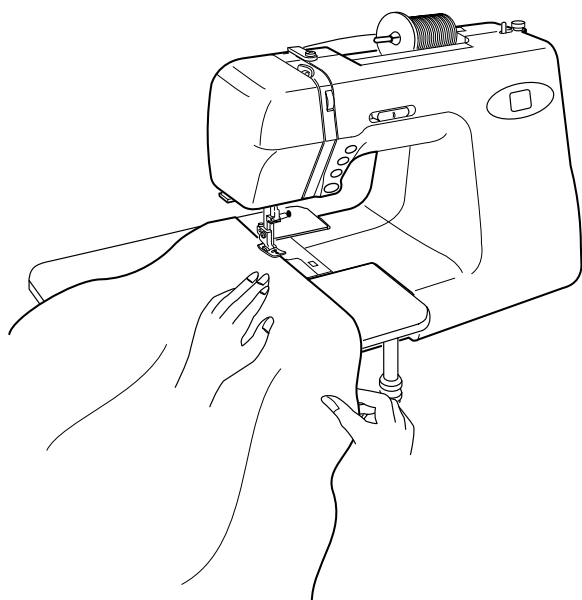
⑤ 模様 を選び、手順①からくりかえします。

●レザー押さえの使い方

滑りの良い特殊素材でできた押さえなので、滑りの悪い素材、合成皮革などもスムースにぬうことができます。一般の布地でも使用できます。

●スーパー模様の形の整え方

※スーパー模様は前進ぬいと後進ぬいがある模様です。

布の種類、厚さ、ぬう速さなどによっては、模様の形がくずれる場合があります。実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送りバランス調節ねじで調節してください。

※指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しくぬえる目安の位置です。

●ワイドクリアテーブルの使い方

⚠ 注意

禁　止

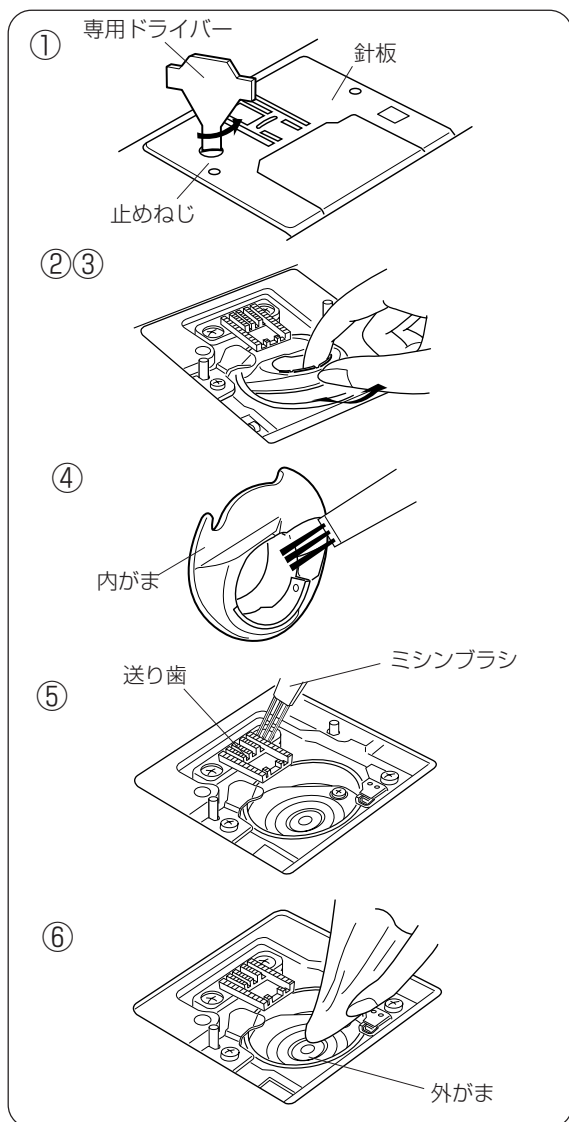
ワイドクリアテーブルをアイロン台等、他の目的で使用しないでください。
けがの原因になります。

布を置くスペースが広くなり､大きな布地をぬうときの作業がしやすくなりました。

※ワイドクリアテーブルの取り付け方は化粧箱をごらんください。

◎ミシンの手入れ

●かまと送り歯の掃除

⚠ 注意

手入れのときには、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
説明されている箇所以外は分解しないでください。
感電・火災・けがの原因になります。

① 針と押さえを外します。
（16、17ページをごらんください。）

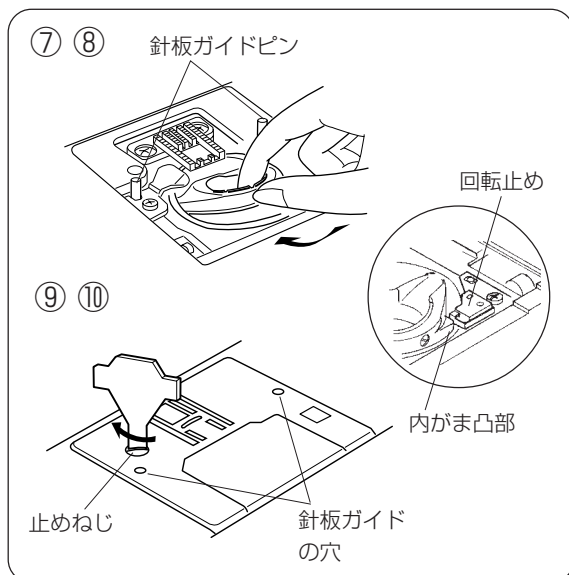
② 止めねじを外し、針板を外します。
③ ボビンを取り出し、内がまの手前を上に引きながら外します。
（ボビンの取り出し方は、9ページをごらんください。）

④ 内がまを、ミシンブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

⑤ 送り歯のごみを、ミシンブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

⑥ 外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

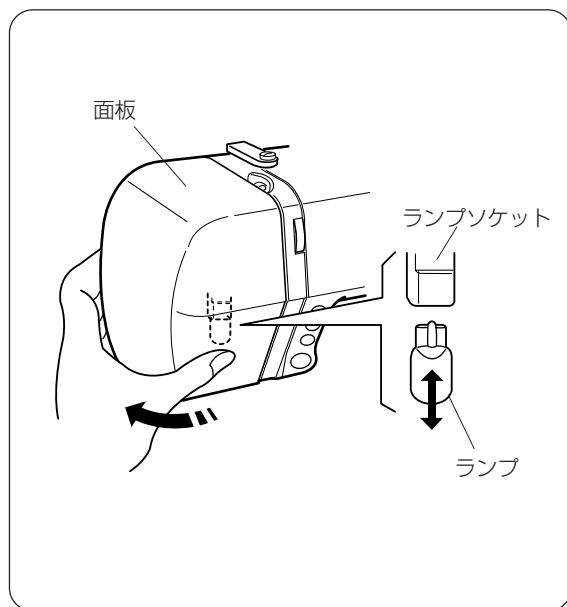
※ ミシンブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、掃除機などで吸いとってください。

●かまの組み付け

⑦ 内がまを差し込みます。

⑧ 内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。

⑨ ボビンを入れ、2箇所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせて、針板を取り付けます。
⑩ 止めねじをしめます。

※ 手入れが終わったら、忘れずに針と押さえを付けてください。

●ランプの取りかえ方

⚠ 注意

必ずプラグを抜く

ランプを取りかえるときには、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
また、ランプは冷えてから外してください。
感電・やけどの原因になります。

【ランプの外し方】
① 面板を開きます。
② ランプを下に引き抜きます。

【ランプの付け方】
① ランプをソケットの穴に合わせながら、差し込みます。
② 面板をしめます。

※ ランプの購入は、お買い上げの販売店へお問い合わせください。
ランプ品番は、000026002（12V、5W)です。
定格の異なるランプは、取り付けないでください。

◎こんな表示が出た場合

警告音とともに以下の表示があった場合、2秒間表示、または、正しい操作が行われるまで表示されます。

表　示	対　処　方　法
Fc	1. フットコントローラーを接続した状態で、スタート・ストップボタンを押した場合に表示されます。 スタート・ストップボタンを使用する場合には、フットコントローラーの接続を外してください。 2. ぬい中にフットコントローラーのプラグを差し込んだり、外したりした場合にも表示され、ミシンモータが停止します。 プラグの抜き差しは、電源を切ってから行ってください。 3. フットコントローラーを踏み込んだまま、電源を入れたときに表示されます。 プラグの抜き差しは、電源を切ってから行ってください。
Lo	安全装置の作動により、ミシンモータが緊急停止したときと、その後15秒間の間に再スタートしようとすると表示されます。しばらくおまちください。 糸がらみ等があった場合には、電源を切り、不要な糸を取り除いてください。
bL	ボタンホール（BH）切りかえレバーをさげないでボタンホールを0.5cmぬうと表示されミシンが止まります。ボタンホール（BH）切りかえレバーを引きさげて、再スタートしてください。正しくボタンホールがぬえます。
UP	ボタンホールをぬったあとに、押さえ上げをさげたまま、他の模様を選択しようとした場合に1度表示されます。 ぬい終わったら押さえ上げをあげ、ボタンホール（BH）切りかえレバーをあげてください。 安全の為、ボタンホール押さえのまま、他の模様をぬわないでください。
JC	糸巻き軸を下糸巻き位置にセットしたとき表示されます。この状態で模様選択ボタンを押すと JC が点滅表示します。 糸巻き軸をもとの位置にもどしてください。
dn	1. 押さえ上げをさげないで、ミシンをスタートすると表示されミシンは動きません。 押さえ上げをさげてからスタートします。 2. ぬい終わらない前に押さえ上げをあげたとき表示され、ミシンが止まります。押さえ上げはぬい終わってからあげてください。
E1 〜 E5	ミシンが正しく作動しなかった場合に表示されます。電源を切り、針板を外し、かまや送り歯に糸がからんでいないか確認します。確認が終わったら、上糸をかけ直して再スタートします。直らない場合はすぐ電源を切り、お買い上げ店へご連絡ください。

●ブザー音の種類

ブザー音	内　　容
ピッ	正しい操作をした場合の受付音です。
ピピピッ	不正な操作をした場合の禁止音です。
ピピピー	ボタンホールぬい完了等の終了音です。
ピー	ミシン異常時の警告音です。

◎ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方
上糸が切れる。	1．上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。または、糸調子皿から上糸が外れている。 2．上糸調子が強すぎる。 3．針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4．針の付け方がまちがっている。 5．ぬい始めに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6．ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 7．針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。	12ページ参照 18ページ参照 17ページ参照 17ページ参照 19ページ参照 20ページ参照 17ページ参照
下糸が切れる。	1．下糸の通し方が、まちがっている。 2．内がまの中に、ごみがたまっている。 3．ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 4．下糸がゆるく巻かれている。	11ページ参照 44ページ参照 ボビンを交換する。 巻く速度をはやくする。
針が折れる。	1．針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2．針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3．ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 4．布に対して針が細すぎる。 5．模様に合った押さえを使用していない。	17ページ参照 17ページ参照 20ページ参照 17ページ参照 押さえを交換する。
ぬい目がとぶ。	1．針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2．布に対して針と糸が合っていない。 3．伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャノメブルー針（市販ＳＰ針）を使っていない。 4．上糸のかけ方がまちがっている。 5．品質の悪い針を使用している。	17ページ参照 17ページ参照 17ページ参照 12ページ参照 針を交換する。
ぬい目がしわになる。	1．上糸調子が合っていない。 2．上糸下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 3．布に対して針が太すぎる 4．布に対してぬい目があらすぎる。 ＊特にうすい布をぬうときは、下側に紙をあてててぬってください。	18ページ参照 11、12ページ参照 17ページ参照 ぬい目を細かくする。
布送りがうまくいかない。	1．送り歯に糸くずがたまっている。 2．ぬい目が細かすぎる。 3．送り歯があがっていない。	44ページ参照 ぬい目をあらくする。 15ページ参照
ぬい目に輪ができる。	1．上糸調子が弱すぎる。	18ページ参照
ボタンホールがうまくいかない。	1．布に対してぬい目のあらさが合っていない。 2．伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。 3．ボタンホール（BH）切りかえレバーがさがっていない。	32ページ参照 芯地を貼る。 レバーをさげる。
ミシンがまわらない。	1．電源のつなぎ方がまちがっている。 2．かまに、糸やごみがたまっている。 3．糸巻軸が、下糸を巻いたあと、もとにもどっていない。（糸巻状態になっている） 4．コントローラーを接続したままでスタート・ストップボタンを押している。 5．押さえ上げがさがっていない。	5ページ参照 44ページ参照 10ページ参照 5ページ参照 押さえ上げをさげる。
音が高い。	1．かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2．送り歯に、ごみがたまっている。	44ページ参照 44ページ参照

※静かな部屋で使うと、「ウイーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モータから発生しているもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。
※長時間使うと、表示窓と選択ボタンの部分の温度が少し高くなります。内部の制御部の発熱によるもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

修理サービスのご案内

●お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
●無料修理保証期間内（お買い上げ日より１年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申しつけください。

修理用部品の保有期間

●当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後８年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

●使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
1）保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
2）浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
3）お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
4）お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
5）職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。
●長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
●有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は
下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社
住　所　〒193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地
電　話　お客様相談室　0120 － 026 － 557（フリーダイヤル）
042 － 661 － 2600
受　付　平日　9：00 ～ 12：00　13：00 ～ 17：00
（土・日・祝日・年末年始を除く）
ホームページ　http://www.janome.co.jp
メールでのお問い合わせ　customer@gm.janome.co.jp

仕様	
使用電圧	100V　50/60Hz
消費電力	50W （ランプ 12V 5W）
外形寸法	幅 41.3cmX 奥行 18.0cmX 高さ 29.8cm
重量	7.8kg（本体）
使用針	家庭用　HA X 1
最高ぬい速度	毎分 700 針 フットコントローラー使用時（毎分 820 針）

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。